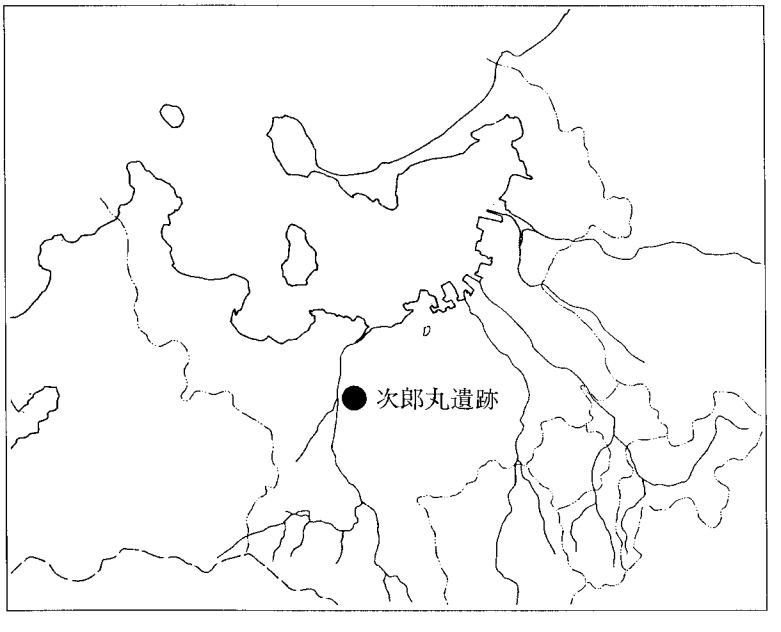
次郎丸遺跡 I

次郎丸遺跡群第３次調査
福岡市埋蔵文化財調査報告書第468集

１９９６
福岡市教育委員会

次郎丸遺跡 I

次郎丸遺跡群第３次調査
福岡市埋蔵文化財調査報告書第468集



１９９６
福岡市教育委員会

序

福岡市は古くから大陸との対外交渉の窓口として発展してきました。このような環境のもとに数多くの文化財が残されています。本市におきましてはこの保護に努めています。

本書は早良区次郎丸における道路建設に伴い実施された埋蔵文化財発掘調査の記録です。調査の結果、古墳時代の溝より多量の土器が出土したのをはじめ、当地の歴史を知るうえで、多くの貴重な資料を得ることができました。学術的な報告書としては満足できるものではありませんが、埋蔵文化財保護のご理解に役立てば幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり、西南部街路課をはじめ、多くの方々のご理解、ご協力を賜りましたことに対し、心より感謝の意を表する次第です。

平成8年3月31日

福岡市教育委員会
教育長　尾花　剛

例　言

1　本書は福岡市教育委員会が早良区次郎丸における道路建設に伴い調査を行った次郎丸遺跡の第3次調査報告書である。
2　本書に使用した方位はすべて磁北方位である。
3　本書に掲載した遺構の実測は坂本憲昭、清川朋和、岡崇、宮原邦江、原幸子、中村啓太郎が行った。
4　遺物の実測は平川敬治、井田まゆみ、中村啓太郎が、製図は中村が行った。
5　本書に掲載した写真は全景写真を空中写真企画に委託し、他を中村が撮影した。
6　本書の執筆は中村が行った。

調査番号	9339	遺跡略号	JRM－3
調査地	早良区次郎丸4丁目		
調査期間	平成5年9月27日～平成5年11月27日		

本文目次

I　はじめに……1
　1　調査にいたる経過……1
　2　発掘調査の組織……1
II　位置と環境……2
　1　位置と環境……2
　2　これまでの調査……2
III　調査の記録……5
　1　調査の概要……5
　2　溝……5
　3　土坑……22
　4　掘立柱建物……22
　5　溝状遺構……25
　6　その他の遺物……25
　7　おわりに……26

Ⅰ　はじめに

1　調査にいたる経過

福岡市土木局西南部街路課より福岡市早良区次郎丸４丁目における道路拡幅のための埋蔵文化財事前審査願いが提出された。これを受けた埋蔵文化財課では、申請地が次郎丸遺跡群の範囲内であり、隣接する北側で第２次調査、道路を挟んだ西側で第１次調査がおこなわれていることから平成５年６月14日に試掘調査を行った。その結果、柱穴、溝等が確認され、この溝は外環状道路建設に伴う１次調査で検出された溝と同一のものではないかと推測された。その成果をもとに協議を重ねたが、現状での保存、設計変更は不可能との結論になり、記録保存のための発掘調査を行うこととなった。調査は平成５年９月21日より開始し、平成５年11月21日に無事終了した。

最後になりましたが、土木局西南部街路課、大三運輸株式会社代表取締役 日野祐次氏、岡崇氏には多大なご協力をいただいた。記して感謝いたします。

2　発掘調査の組織

調査委託　福岡市土木局西南部街路課
調査主体　福岡市教育委員会
調査総括　文化財部　部長 後藤直
埋蔵文化財課　課長 折尾学（前任）
荒巻輝勝
第１係長 横山邦継
庶務担当　入江幸雄
事前審査　井澤洋一
長家伸
調査担当　中村啓太郎
調査員　坂本憲昭
調査作業　井上雅裕　徳永洋二郎　友永瑞穂　長嶋光儀　灰塚博　横尾泰広　清川朋和
有富溢子　井上紀代子　緒方まさよ　緒方マサヨ　鬼塚友子　柴田勝子　柴田春代
白浜千恵野　土斐崎初栄　永井ユリ子　原幸子　平井和子　宮原邦江
整理作業　尾畑源紀　小幡紀美子　木場いずみ　柴藤理恵　鶴田葉子　中山毬子　楢崎多佳子
松下節子　三島範子
調査協力　岡崇

II　位置と環境

1　位置と環境

次郎丸遺跡群は福岡市早良区次郎丸に位置する南北約600m、東西約150mの遺跡群である。遺跡は早良平野を北流する室見川中流域の東岸、標高10m前後の低位段丘上に立地する。調査区の現況は駐車場であった。西に第１次調査区、北に接して第２次調査区が位置する。次郎丸の名はすでに鎌倉期には見え、二郎丸とも記されている。筥崎宮領である。

周辺の遺跡についてみてみると、東部300m程に弥生時代中期から古墳時代前期の集落遺跡である次郎丸高石遺跡(2)がある。金屑川を挟んで東に弥生時代中期から古墳時代前期の自然流路、井堰群、杭列を検出した免遺跡群(3)がある。さらに野芥大藪遺跡(4)、弥生時代から中世の集落である野芥遺跡群(5)が存在する。これらの遺跡は外環状道路の建設に伴う調査によってその様相をあきらかにしつつある。北には有田遺跡群(6)が存在する。これまでに180次にわたる調査が行われ、旧石器時代から近世までの各時代の遺構が確認されている。弥生時代においては前期に環濠集落を有すなど拠点的な集落とおもわれる規模をもち、後期に縮小するものの、古墳時代にも各時期の集落が存在する。古代には倉庫群が確認されており官衙施設の可能性が考えられている。また有田遺跡群の東には原遺跡群(7)が位置する。南600m程には田村遺跡群(8)が位置し、縄文時代から近世までの各時期の遺構が確認されている。中心となる時期は弥生時代と古代末から中世でとくに後者における集落の規模や遺物の質量は特筆される。さらに南には四箇遺跡群(9)、重留遺跡群(10)が存在している。室見川の西岸には吉武遺跡群(11)が存在する。遺構は旧石器時代から中世迄の各時期が確認されているが、特に弥生時代においては多数の青銅製武器等の副葬品を所有する特定集団墓、墳丘墓、大型建物等が確認され早良平野において突出した位置を占める。またその周囲には多くの遺跡が存在する。

2　これまでの調査

第１次調査　道路建設に伴う調査。遺構は２面にわたって確認された。上面で古墳時代から中世の遺構を検出した。検出遺構は溝、掘立柱建物、井戸、土坑、柱穴である。古墳時代前半期の２条の溝は水田用水と考えられ、廃棄した溝では祭祀が行われている。なおこの溝は今回報告する10号溝と同一のものと思われる。下面で弥生時代初頭の溝を検出した。

第２次調査　道路建設に伴う調査。遺構は２面にわたって確認された。上面は古代末～中世の集落で、ピット、溝、石組井戸、土坑、掘立柱建物７棟等を検出した。掘立柱建物には２間×３間の身舎に総廂を巡らせるものがある。下面では縄文時代晩期末頃の段落ち状遺構を検出した。

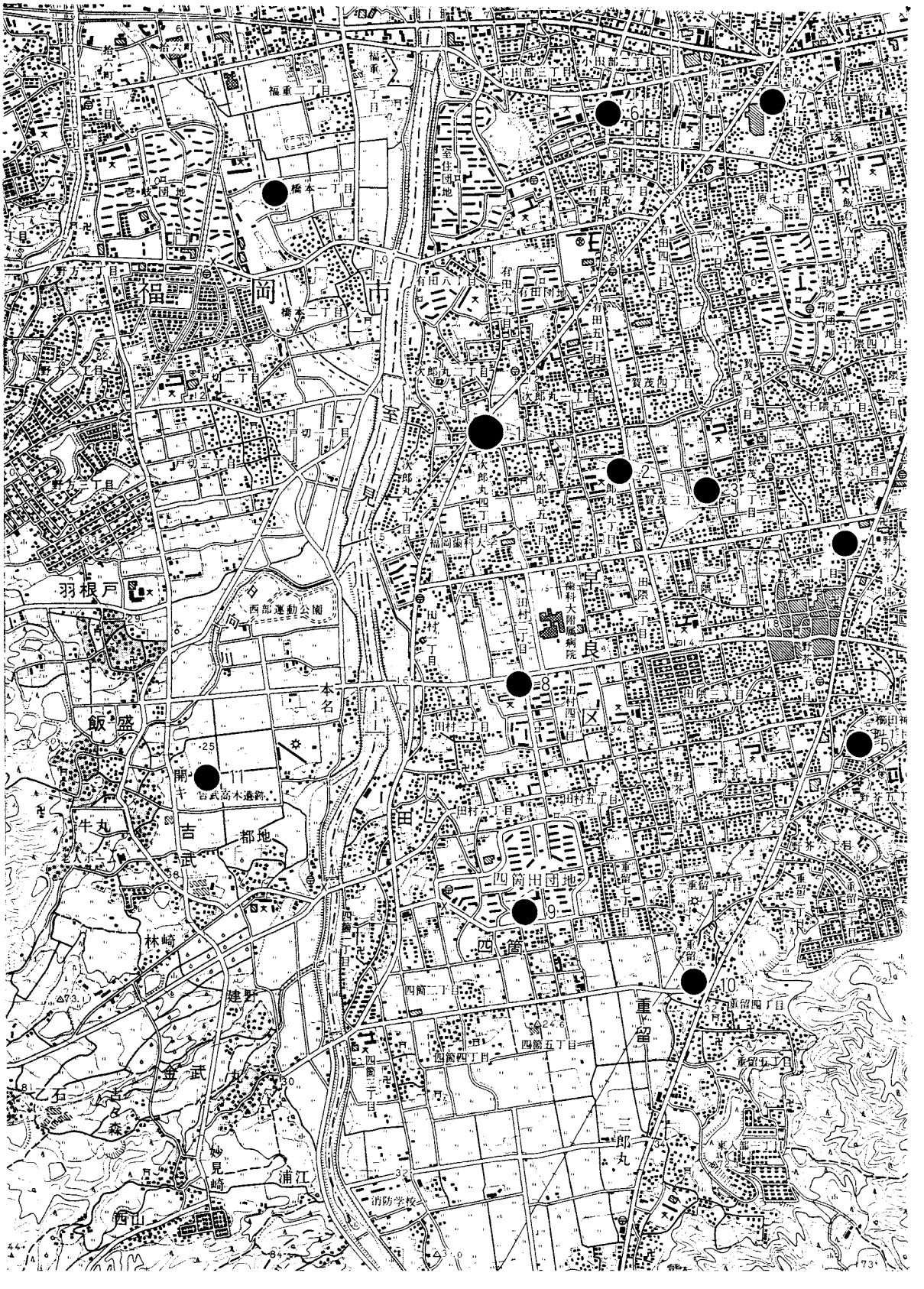


Fig. 1　周辺遺跡分布図（1/25,000）

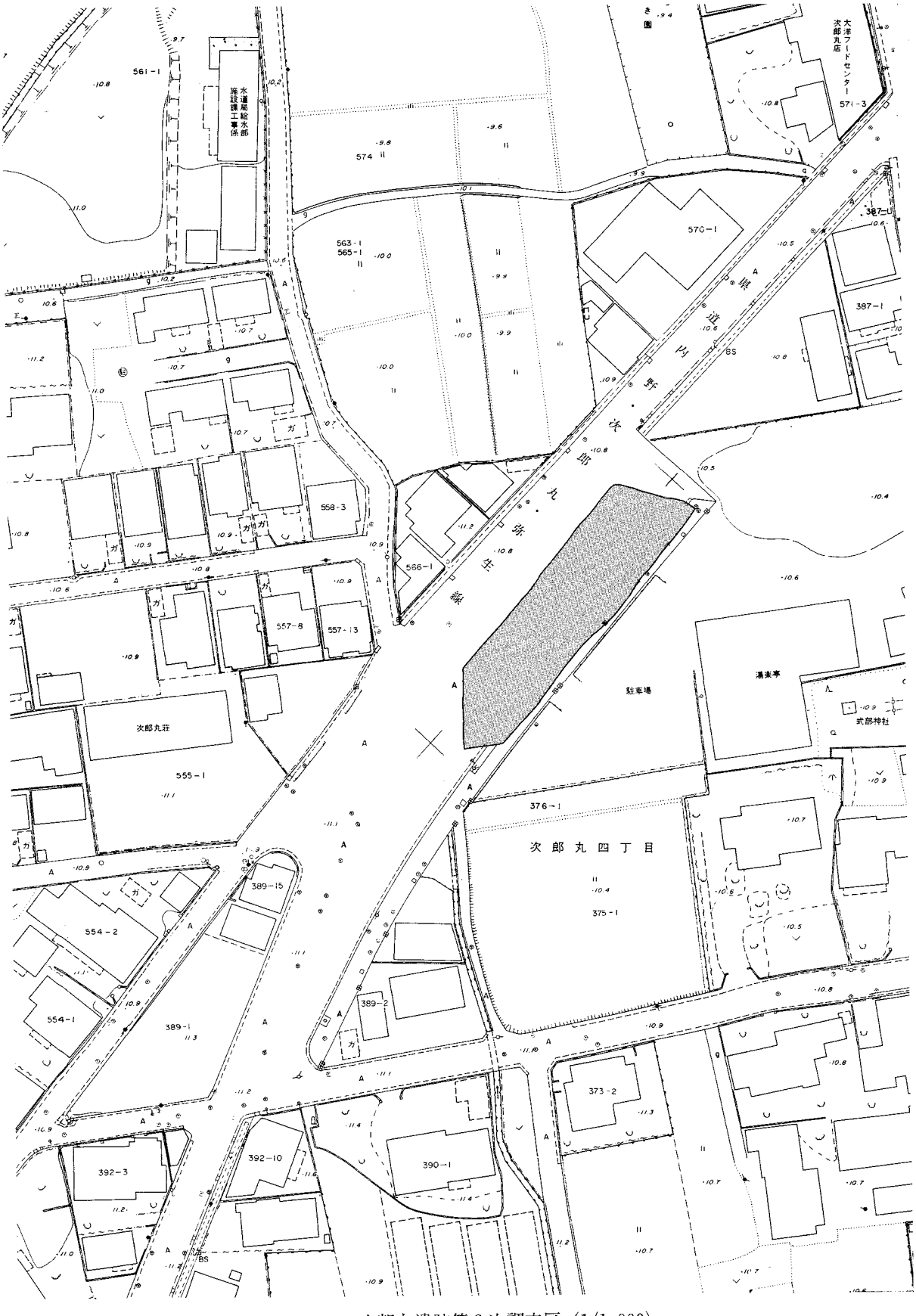


Fig. 2　次郎丸遺跡第3次調査区（1/1,000）

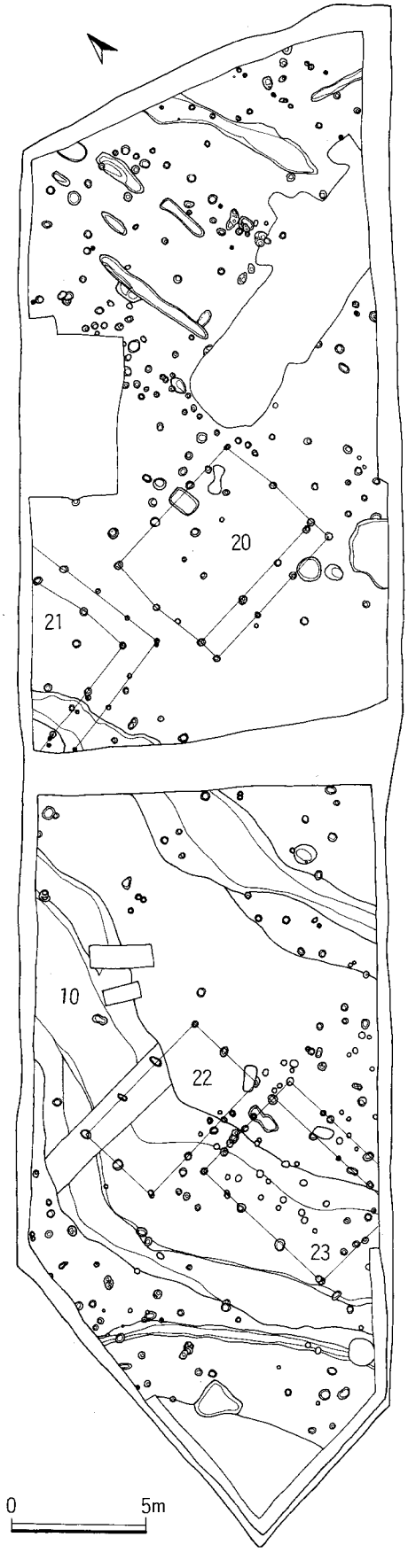


Fig. 3　遺構配置図（1/250）

Ⅲ　調査の記録

1　調査の概要

調査区は早良区次郎丸４丁目、内野次郎丸弥生線に沿って位置する。北を第２次調査区に接する。第１次調査区は北に位置する。調査面積は560㎝である。調査は廃土の処理や銭湯の出入口の確保の関係から北部から開始し、その後打って返し、南部へ移った。調査区中央部は銭湯からの排水管が通っているため幅1.5m～2mほど未掘削の部分が残った。

遺構面までの基本層序はアスファルト、バラス、客土が地表下60㎝までつづき、青灰色粘質土が10～20cm、暗青灰色粘質土が10～20cm、黄褐色粘質シルトが10～20cmとなり、遺構面である茶褐色粘質シルトに達する。遺構面は標高9.9m前後である。

尚、今回の調査では調査区周囲に排水溝を兼ねたレンチを入れたが、第１次、２次調査で検出された下面の弥生時代初頭の遺構は検出されなかった。また調査区南部に第10号溝に切られて存在する小河川は期間の関係上、完掘を断念し、トレンチを入れるに止まった。埋没時期は第10号溝よりわずかに古いものと思われる。

検出遺構

溝	１条（古墳時代前期）
掘立柱建物	４棟
土坑	６基
溝状遺構	７条
柱穴	多数
河川	１条

遺物は総量でコンテナ30箱程出土した。そのほとんどは第10号溝出土である。

2　溝

第10号溝

調査区南部を西に曲がりながら南北に貫流する溝である。幅4.2～6m、深さ1.1m程度を測る。断面形は２段状になる。底から約50㎝程土砂が堆積した時点で完全に流れを止めてしまう。出土遺物の大半はこの直上から出土

している。

出土遺物

土師器、陶質土器、瓦質土器、羽口、鉄滓、不明土製品、鉄矛等を出土した。

1～31は土師器の甕である。1は複合口縁を呈し、球形の胴部をもつ。口径29.6cmを測る。調整は口縁部は内外ともヨコナデ、外面は肩部は器面が荒れて不明。中位は横方向のハケメ。内面は粗いナデを施す。2は複合口縁を呈し、肩が張る胴部を有する。口径21.5cm、器高42.9cm。調整は口縁部が内外ともヨコナデ。胴部外面はハケ後一部ナデ。内面はヘラケズリを施す。3は複合口縁を呈し、球形の胴部をもつ。口径18.1cm，器高32.4cm。調整は外面は器面が荒れて不明。内面はヘラケズリを施す。4はややだれたつくりの口縁を呈す。口径15.6cm、器高33.8cm。調整は外面は粗い縦方向のハケメ。内面は上位がヘラケズリ、下位は明瞭でない。5は最大径が上位にある胴部を有す。調整は外面は器面が荒れるが一部ハケメが残る。内面はヘラケズリを施す。6は複合口縁か。胴部最大径は中位よりやや上にあり、焼成後に穿孔を施す。調整は外面は縦方向のハケ。内面はヘラケズリを施す。7は複合口縁を成し、肩は張らない。復原口径18.4cm。調整は口縁部はハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケメ。内面はヘラケズリを施す。8は複合口縁を成し、肩は張らない。復原口径16.8cm。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面はハケメ。内面はヘラケズリを施す。9はやや外傾する口縁を呈し、端部が肥厚する。胴部は最大径が中位よりやや上にある。口径18.3cm、器高31.9cm。調整は口縁部外面はヨコナデ。口縁部内面はハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。10は全体にややだれたつくりである。胴部の重心はやや下方にある。口径17.4cm、器高29.6cm。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位が縦方向のハケメ、下位が斜め方向のハケメ。胴部内面はヘラケズリを施す。11はやや厚ての口縁を成し、球形の胴部を呈する。口径17.0cm。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。12は球形の胴部を呈す。調整は外面はハケメ、内面は器面が荒れて不明。13は口縁は短く外傾し、球形の胴部を呈し、下方に焼成後穿孔を施す。口径15.1cm。調整は口縁部はハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。14はやや立ち気味の口縁で、胴部はやや歪んでいる。口径12.1cm、器高20.0cm。調整は口縁部はハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。15は厚ての口縁をを成し、胴部の肩は張らない。口径15.4cm、調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。16は薄手の直線状に外傾する口縁を成し、胴部は球形の胴部を呈す。口径12.1cm、調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。17はやや厚手の口縁を成し、端部に沈線が巡る。口径17.4cm。調整は口縁部外面はヨコナデ、内面はハケメを施す。胴部外面はハケメ、内面は上位をユビオサエ後ナデ、中位はヘラケズリを施す。18は口径14.0cm。調整は外面は器面が荒れて不明。内面はヘラケズリを施す。19は立ち気味の厚手の口縁を成す。口径14.0cm。調整は口縁部はハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。20は口縁部は端部が厚みをもつ。口径16.8cm、調整は口縁部はハケメ。胴部外面はハケメ、内面は上位がナデ、以下はヘラケズリを施す。21は口径17.4cm。調整は口縁部がヨコナデ。胴部外面はナデ、内面はケズリを施す。22は復原口径19.0cm。調整は口縁部外面はハケ後ヨコナデ、内面は横方向のハケメ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。23は全体に歪みが著しい。口径14cm程度。調整は口縁部がハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。24は復原口径17.4cm、調整は口縁部はハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。25は外反する口縁部で端部をつまみ出す。胴部の肩は張らない。復原口径16.0cm。調整は口縁部はハケ後ヨコナデ。胴部外面は上位はハケ後ヨコナデ以下はハケメ、内面は上位はユビオサエ、以下はヘ

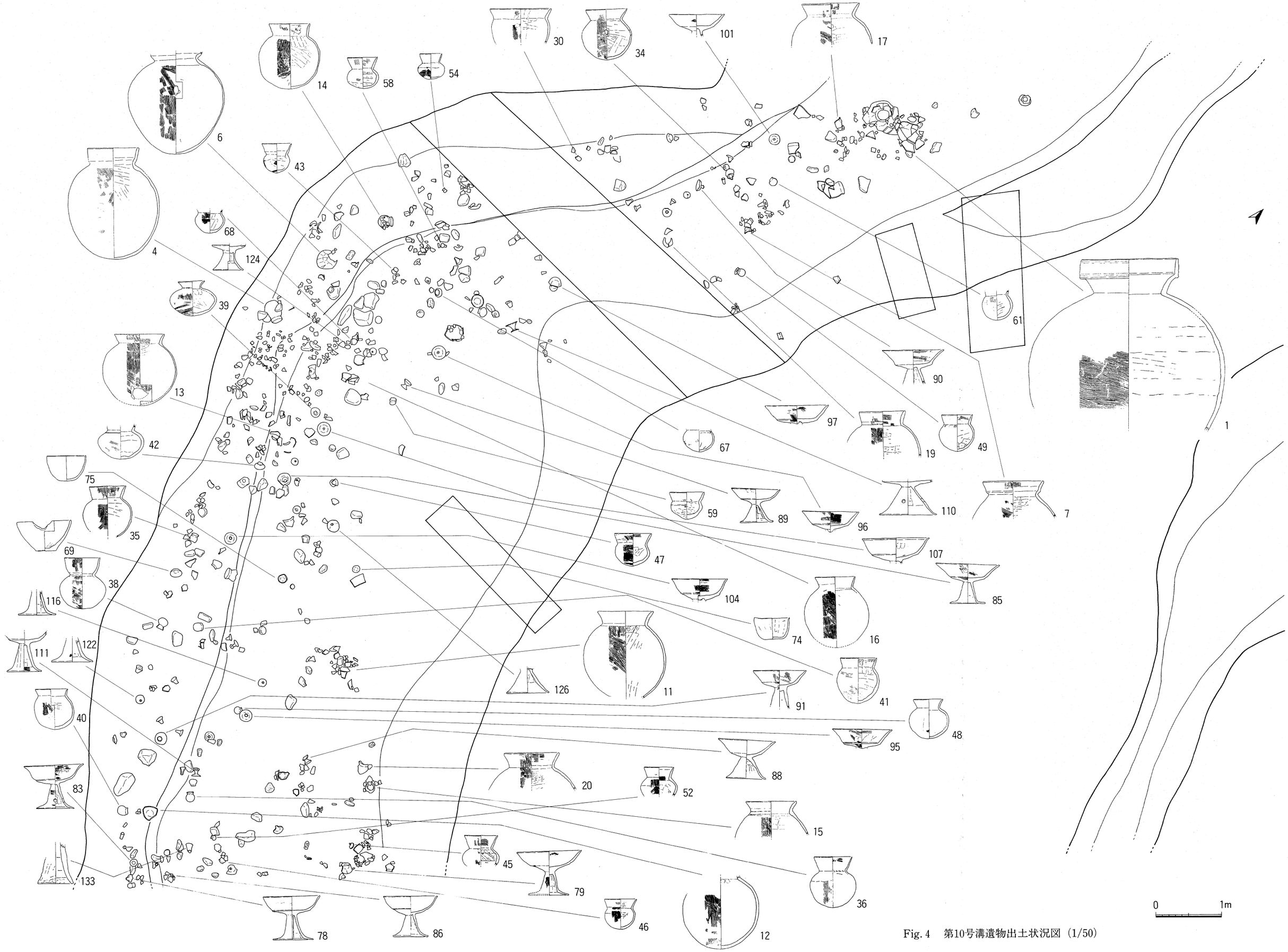


Fig. 4　第10号溝遺物出土状況図（1/50）

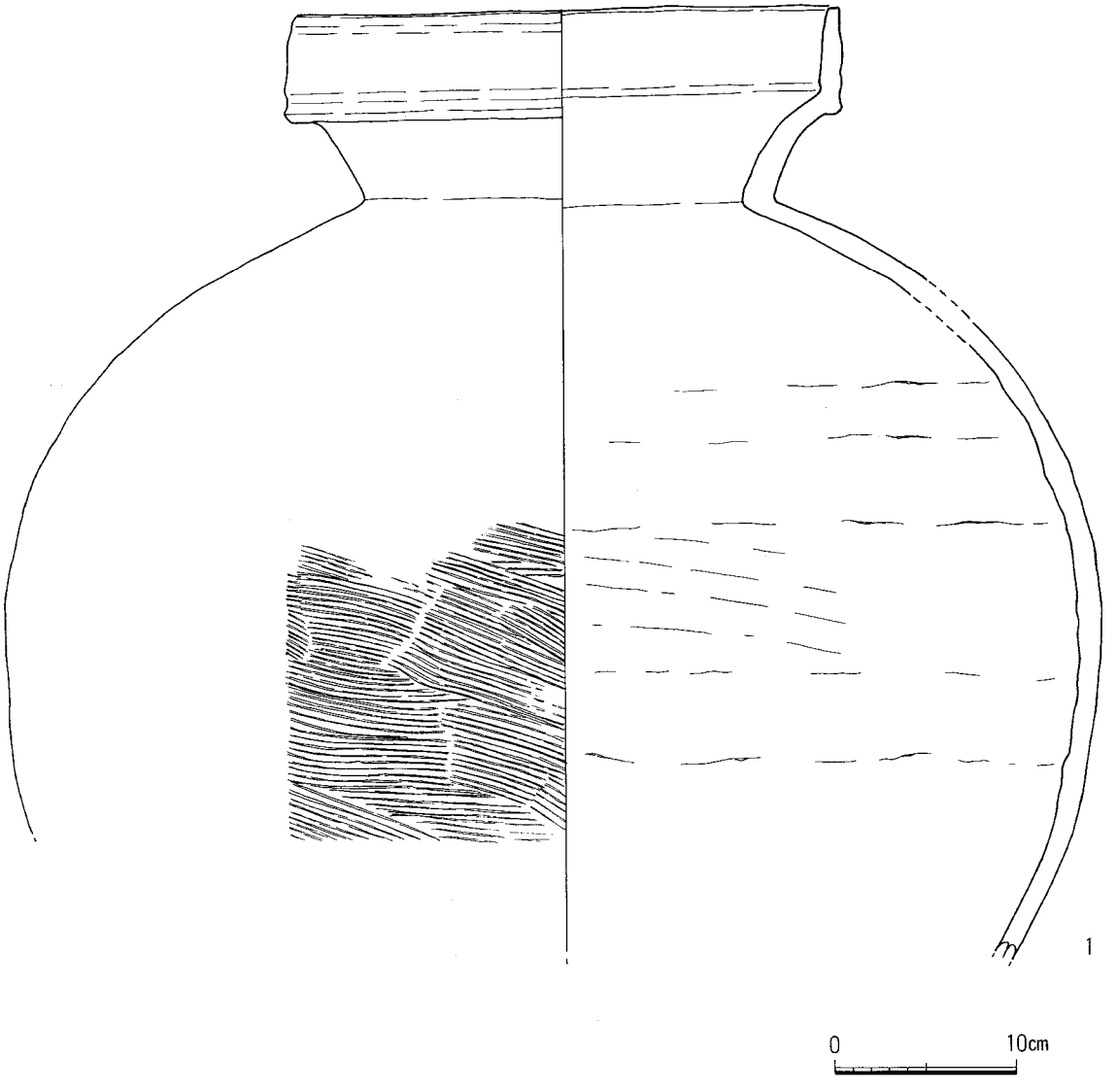


Fig. 5　第10号溝出土遺物実測図①（1/4）

ラケズリを施す。26はやや立ち気味の口縁を呈す。復原口径16.2cm。調整は口縁部はハケ後ヨコナデ。胴部外面は器面が荒れるが、ハケメ及びヘラナデか。内面はヘラケズリを施す。27は直立する薄手の口縁に球形の胴部を呈す。復原口径11.6cm。調整は口縁部はヨコナデ、胴部外面はヘラナデ、内面はヘラケズリを施す。28は短く外傾する口縁に球形の胴部を呈す。復原口径14.2cm。調整は外面は器面が荒れて不明。胴部内面はヘラナデを施す。29は僅かに内湾するする口縁を為す。復原口径16.8cm。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面は横方向のハケメ、内面はヘラケズリを施す。30は口縁部は外傾し、胴部が張らない。復原口径18.6cm。調整は口縁部はユビオサエ後ヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面は上位はヘラケズリ、以下はヘラナデを施す。31はやや短い口縁で、胴部に比して口径が小さい。胴部は球形か。歪みが大きい。口径は14cm程度。調整は口縁部外面はヨコナデ。内面は上位はヨコナデ、下位はユビオサエ後横方向のハケ。胴部外面はハケメ、内面は上位はユビオサエ、以下はヘラケ

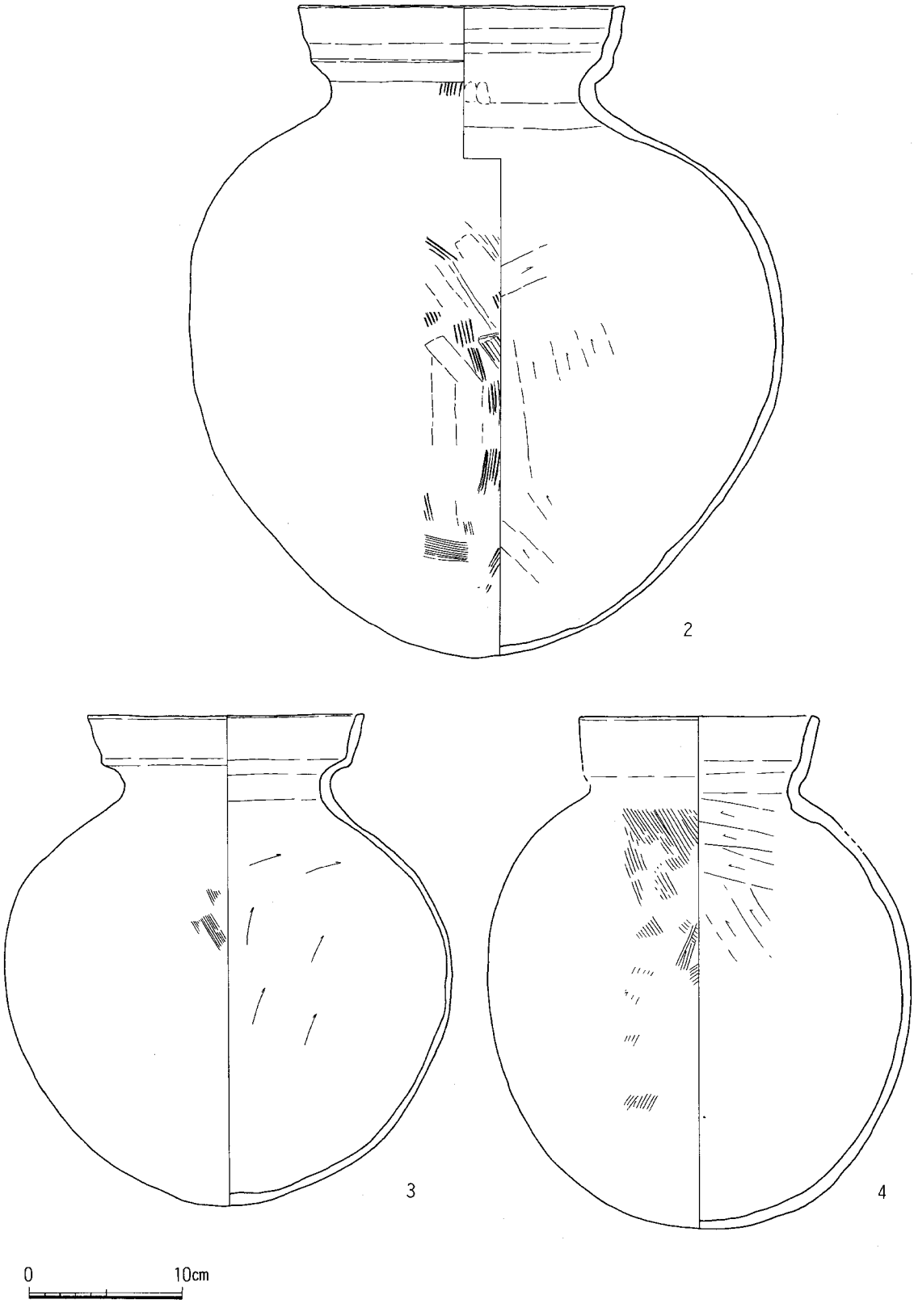


Fig. 6　第10号溝出土遺物実測図②（1/4）

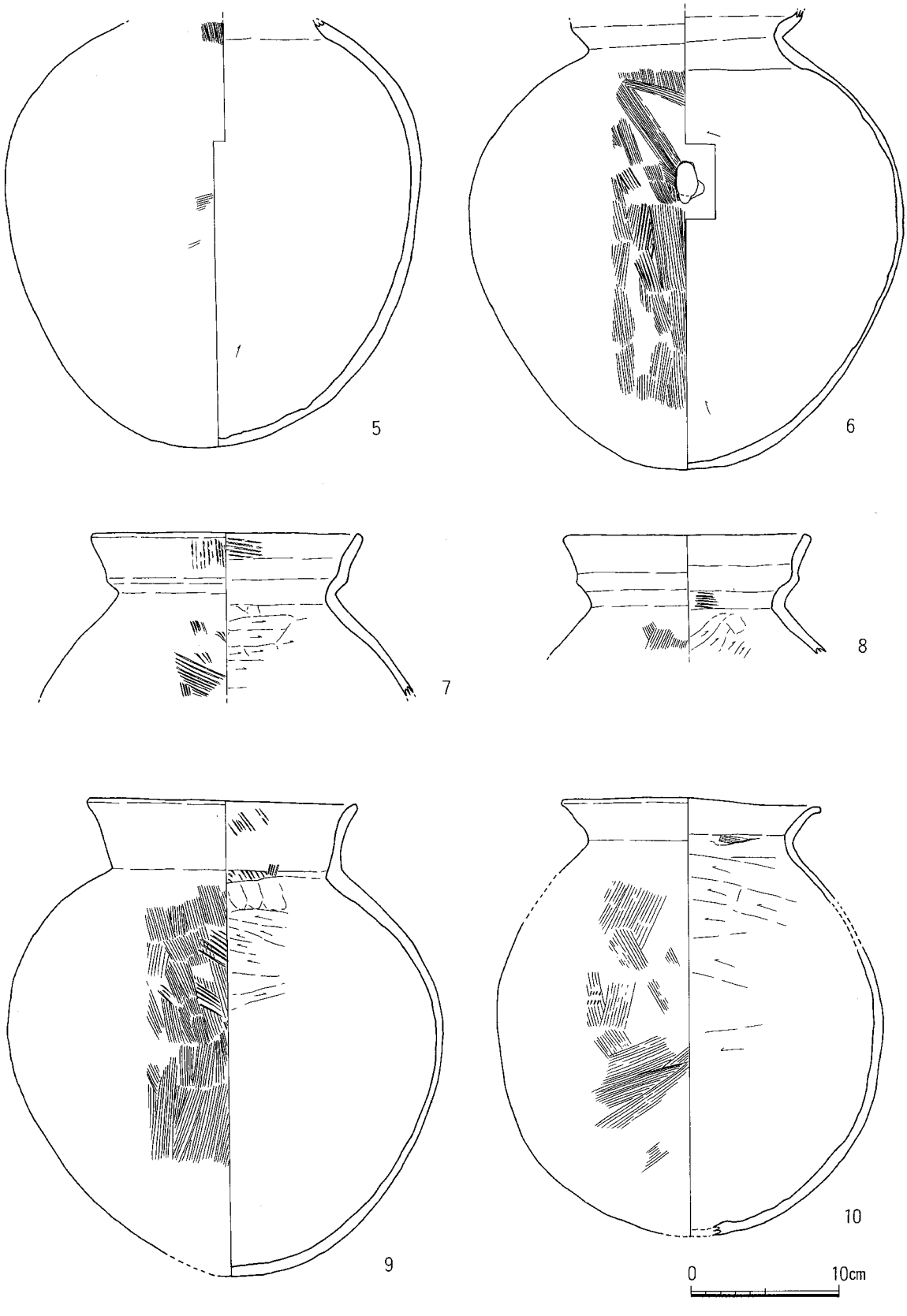


Fig. 7　第10号溝出土遺物実測図③（1/4）

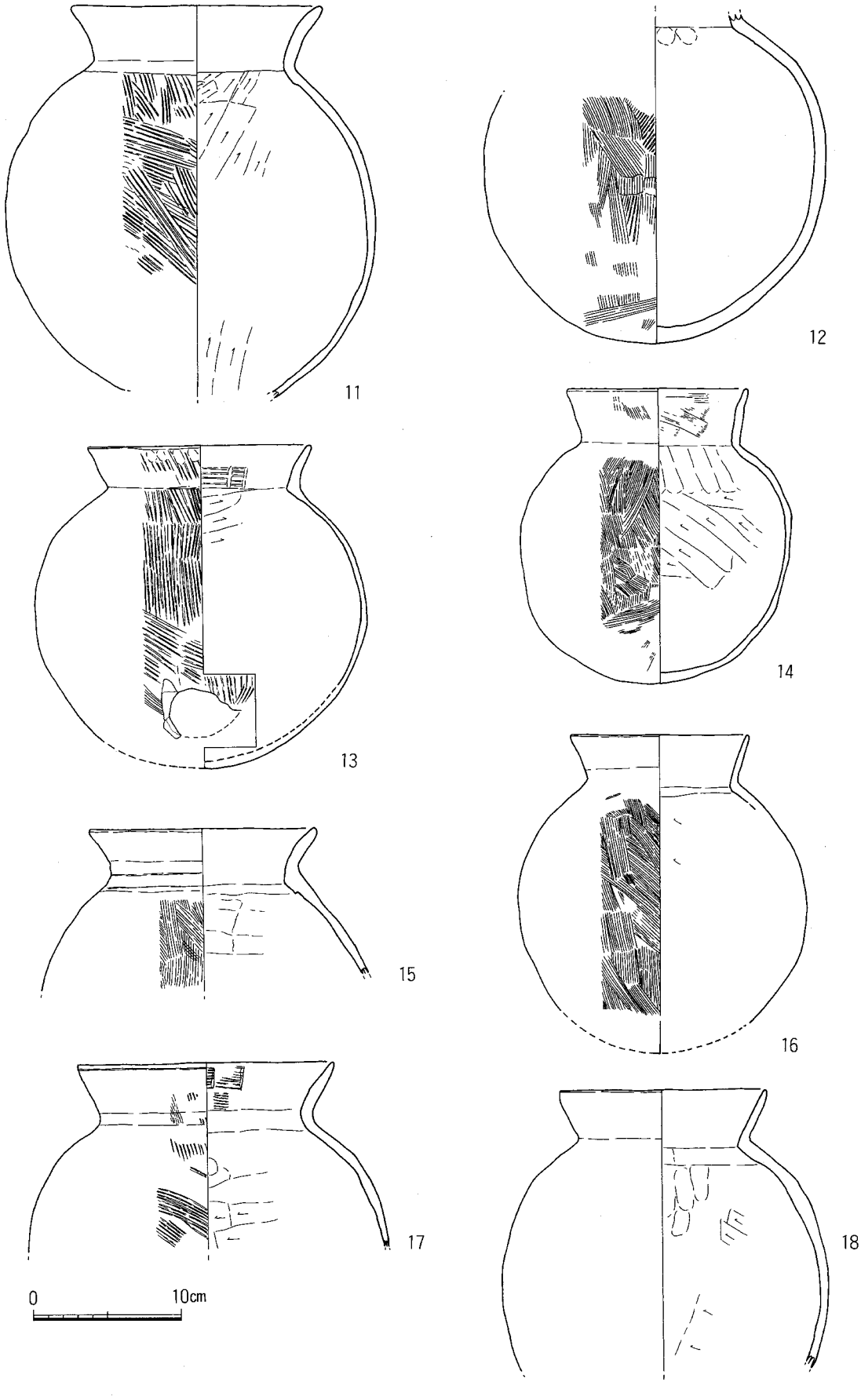


Fig. 8　第10号溝出土遺物実測図④（1/4）

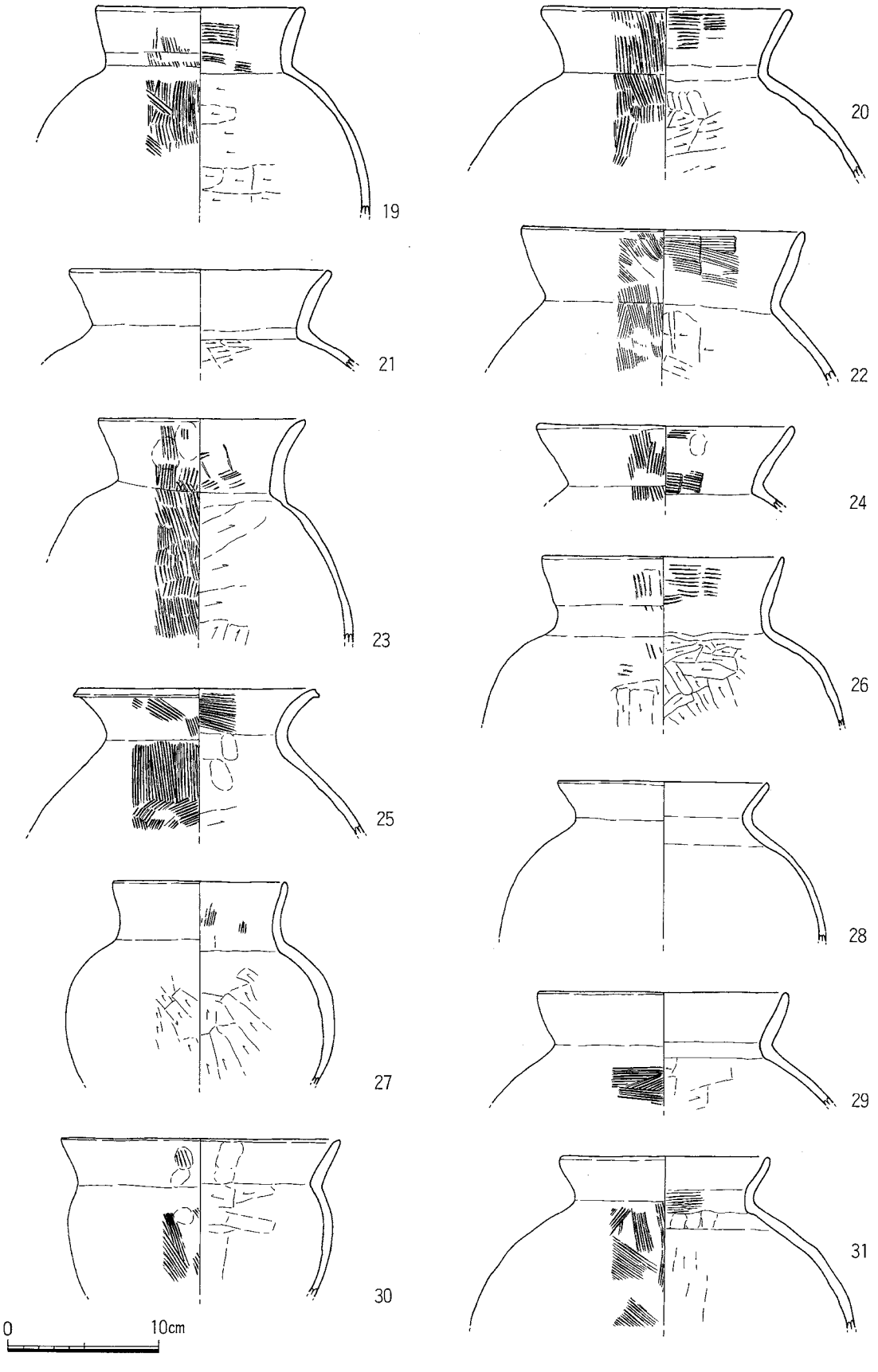


Fig. 9　第10号溝出土遺物実測図⑤（1/4）

ズリを施す。

32～68は壺である。32は全体に歪みが大きい。口径11cm程度。調整は口縁部はハケメ後ヨコナデ。胴部外面はハケメ。内面は上位はユビオサエ後ナデ、以下はヘラケズリを施す。33は復原口径12.2cm。調整は口縁部外面はハケ後ヨコナデ、内面はハケメ。胴部外面はハケメ、内面は上位がユビオサエ、以下はヘラケズリを施す。34は胴部上位に焼成後穿孔を施す。口径12.6cm、器高15.4cm。調整は口縁部外面はハケ後ヨコナデ、内面はヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。35は口縁部中位が肥厚する。口径11.1cm。調整は口縁部外面はハケ後ヨコナデ、内面はヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面は上位はヘラケズリ、下位はヘラケズリ後ナデを施す。36は口縁のつくりは薄く、胴部最大径は中位よりやや上にある。口径11.5cm、器高15.6cm。調整は口縁部はヨコナデ、内面に一部ハケメが残る。胴部外面上位はヨコナデ、下位はハケメ。内面はヘラケズリを施す。37は胴部下位に焼成後穿孔を施す。復原口径10.6cm、器高14.5cm。調整は口縁部外面はハケ後ヨコナデ、内面はハケメ。胴部外面は不整方向のハケメ、内面はヘラケズリを施す。38は口縁部は内湾し、端部は外反する。胴部は球形を呈す。丁寧なつくりである。口径11.0cm、器高14.5cm。調整は口縁部外面はハケ後ヨコナデ、内面はヨコナデ。胴部外面は上位は縦方向のハケメ、以下は不整方向のハケメ。内面はヘラケズリを施す。39は口縁部は強く外反し、胴部は大きく張る。復原口径8.0cm、器高10.5cm。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位が縦方向のハケメ、下位が横方向のハケメ。内面は上位がユビオサエ後ヘラケズリ、下位はヘラケズリを施す。40は全体的に歪んでいる。口径9.8cm、器高12.3cm。調整は器面は荒れるが、口縁部外面はナデ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。41は口縁部はやや外傾し、頸部はあまりしまらない。口径10.8cm、器高13.9cm。調整は口縁部外面がヨコナデ、内面は横方向のハケメ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。42は胴部は強く張り、肩部に沈線が巡る。調整は口縁部はナデ。胴部外面はハケ後ナデ。内面はヘラケズリを施す。43は口縁部が長く、頸部下方に稜線が巡る。口径が胴部径より大きい。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位はナデ、以下はハケメ、内面はヘラケズリを施す。44は長い口縁部に小ぶりの胴部をもつ。口径が胴部径より大きい。口径9.6cm、器高9.2cm。調整は口縁部はヨコナデ後ハケメ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。45は口縁部は薄手のつくりである。復原口径10.1cm。調整は口縁部はハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面は上位はユビオサエ、以下はヘラケズリを施す。46は口径が胴部径より大きい。口径9.7cm、器高9.2cm。調整は口縁部外面はハケメ、内面はヘラナデ。胴部外面は上位が縦方向のハケメ、下位がナデ。内面はヘラケズリを施す。47は胴部がやや歪み、口縁部上位が肥厚する。口径が胴部径より大きい。口径11.3cm、器高11cm程度。調整は口縁部外面はハケ後ヘラナデ、内面はハケ後ヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面は強いナデを施す。48は口縁は外傾し、胴部は球形を呈す。口径9.0cm、器高12.0cm。調整は器面が荒れるが、胴部外面に僅かにハケが残る。内面はヘラケズリか。他は不明。49は頸部があまりしまらず、球形の胴部を呈す。口径9.4cm、器高11.1cm。調整は口縁部外面上位がヨコナデ、下位がハケ後ナデ。内面はハケメを施し、下位はその後ナデを施す。胴部外面ナデ、内面はヘラケズリを施す。50は口縁部のつくりが薄手であるのに対し胴部はかなり厚い。口径8.6cm、器高12.0cm。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面はハケ後ナデ、内面はユビオサエ後ナデを施す。51は胴部は球形にちかいがやや肩が張る。口径9.8cm、器高11.3cm。調整は口縁部はハケ後ヨコナデ。胴部外面は上位がハケ後ヨコナデ、以下はハケメ。内面はヘラケズリを施す。52は復原口径9.0cm。調整は口縁部はハケ後ヨコナデ。端部は整形時のナデにより僅かに外反する。胴部外面ハケメ、内面はケズリを施す。53は口縁部が立ち気味である。口径6.2cm、器高9.0cm。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位がヨコナデ、以下はハケメ、内面はヘラケズリを施す。54は口縁部のつくりは薄く仕上

げる。口径6.6cm、器高7.8cm。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位がナデ、以下はハケメ、内面はヘラケズリか。55は口径と胴部径がほぼ同じである。口径8.7cm、器高8.7cm。口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位がハケ後ヨコナデ、以下はヘラナデ、内面はヘラケズリを施す。56は口縁部中位が僅かに肥厚する。口径6.3cm、器高8.2cm。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面はナデを施す。57は口縁部はやや立ち気味である。口径6.8cm、器高8.6cm。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位がヨコナデ、以下はハケメ、内面はヘラケズリを施す。58は復原口径9.0cm、器高9.5cm。調整は口縁部外面はハケ後ヨコナデ、内面はハケメ。胴部外面は器面が荒れるがヨコナデか。内面は上位がナデ、中位がユビオサエ、以下はヘラケズリを施す。59は口縁部は僅かに内湾し、胴部は歪みが著しい。全体的につくりが粗雑である。口径10.3cm、器高8.1cm。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位はヨコナデ、以下はヘラケズリ。ユビオサエを施す。60は頸部はあまりしまらず、肩部に稜線が巡る。復原口径8.4cm。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位がハケ後ヨコナデ、以下はハケメ、内面はヘラナデを施す。61は球形の胴部を呈す。調整は口縁部はヨコナデ。胴部外面は上位がハケ後ナデ、以下はヘラケズリ後ナデ。内面はヘラケズリを施す。62は調整は胴部外面は上位がハケ後ヨコナデ、以下はハケメ、内面はヘラケズリを施す。63は調整は遺存する口縁部外面はヨコナデ、内面はハケメ。遺存する胴部外面はハケメ、内面はナデを施す。64は調整は遺存する口縁部はヨコナデ。胴部外面は僅かにハケメが残る。内面はヘラケズリを施す。65は胴部のみの遺存。調整は外面はハケメ、内面はユビオサエを施す。66はやや平らな底部をもつ。調整は頸部はハケメ。胴部外面は上位はハケメ、以下は器面が荒れるがナデか。内面はナデを施す。67は調整は胴部外面は上位はヨコナデ、中位はハケが残る。以下はナデ。内面はヘラケズリ後ナデを施す。68は調整は頸部はナデ。胴部外面は上位はハケメ、以下はハケ後ナデ。内面は強いナデを施す。

69～77は鉢である。69は弥生土器。出土状況から混入品とは考えにくい。底部は平底状を呈す。口縁部は打ち欠きか。口径16.5cm、器高9.2cm、底部径5.9cm。調整は外面は器面が荒れて不明、内面はナデを施す。70は半球形を呈す。復原口径18.8cm。調整は外面はハケメ、一部指頭痕が残る。内面はナデを施す。71は半球形の胴部に外反する口縁部を成す。口径15.8cm、器高7.8cm。調整は口縁部外面はハケ後ナデ、内面は横方向のハケメ。胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリを施す。72は口縁下に焼成後に穿孔を施す。復原口径21.6cm。調整は外面上位がヨコナデ、以下はヘラナデ。内面は口縁部がユビオサエ、以下はヘラケズリを施す。73は底部は平らで胴部は直線的に外傾する。底部には焼成前に穿孔が施される。調整は口縁端部はヨコナデ。胴部外面はハケメ、内面は上位が横方向のハケメ、以下は底部までヘラケズリ。底部外面はナデを施す。74は平らな底部で口縁部は僅かに外反する。口径10.6cm、器高6.5cm。調整は口縁部はヨコナデ。外面は器面が荒れて不明。内面はナデを施す。75はやや平らな底部を呈す。復原口径11.8cm、器高7.7cm。調整は器面が荒れて内外面とも不明。76はやや平らな底部を呈す。復原口径9.8cm、器高6.7cm。調整は外面は口縁部がヨコナデ、胴部がヘラナデ、底部がナデ。内面は口縁部がハケメ、胴部がヘラナデ、底部がナデを施す。77は半球形の胴部に平らな底部を呈す。また底部には焼成前の穿孔を施す。調整は外面は口縁部、胴部がハケメ、底部がナデ。内面はユビオサエ後ヘラケズリを施す。

88～128は高坏である。78は坏部が底部と口縁部で屈折し、稜を成す。脚部は裾が大きく開く。口径17.2cm、器高13.4cm、脚裾部径12.3cm。調整は坏部外面は口縁部がヨコナデ、中位がハケ後ヨコナデ、底部はヨコナデ。内面は口縁部はヨコナデ、以下はナデ。脚部は外面はナデ、内面はヘラケズリを施す。79は坏部は底部との境にゆるい稜を成す。脚部は柱状部が僅かにエンタシス状を呈す。口径19.1cm、器高13.4cm。調整は坏部外面はヨコナデ、一部ハケが残る。内面は口縁部はハケ後ヨコナデ、以

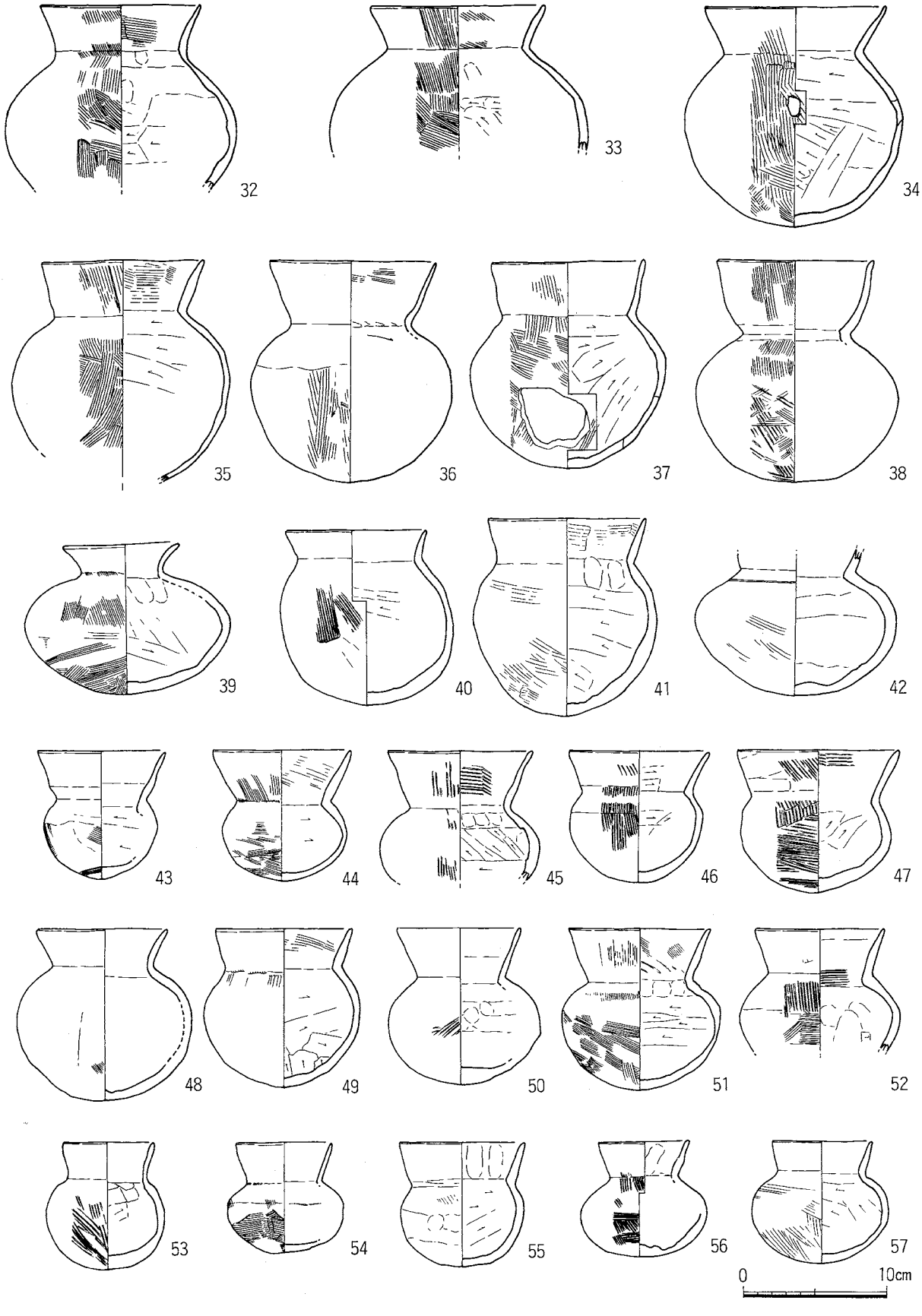


Fig.10　第10号溝出土遺物実測図⑥（1/4）

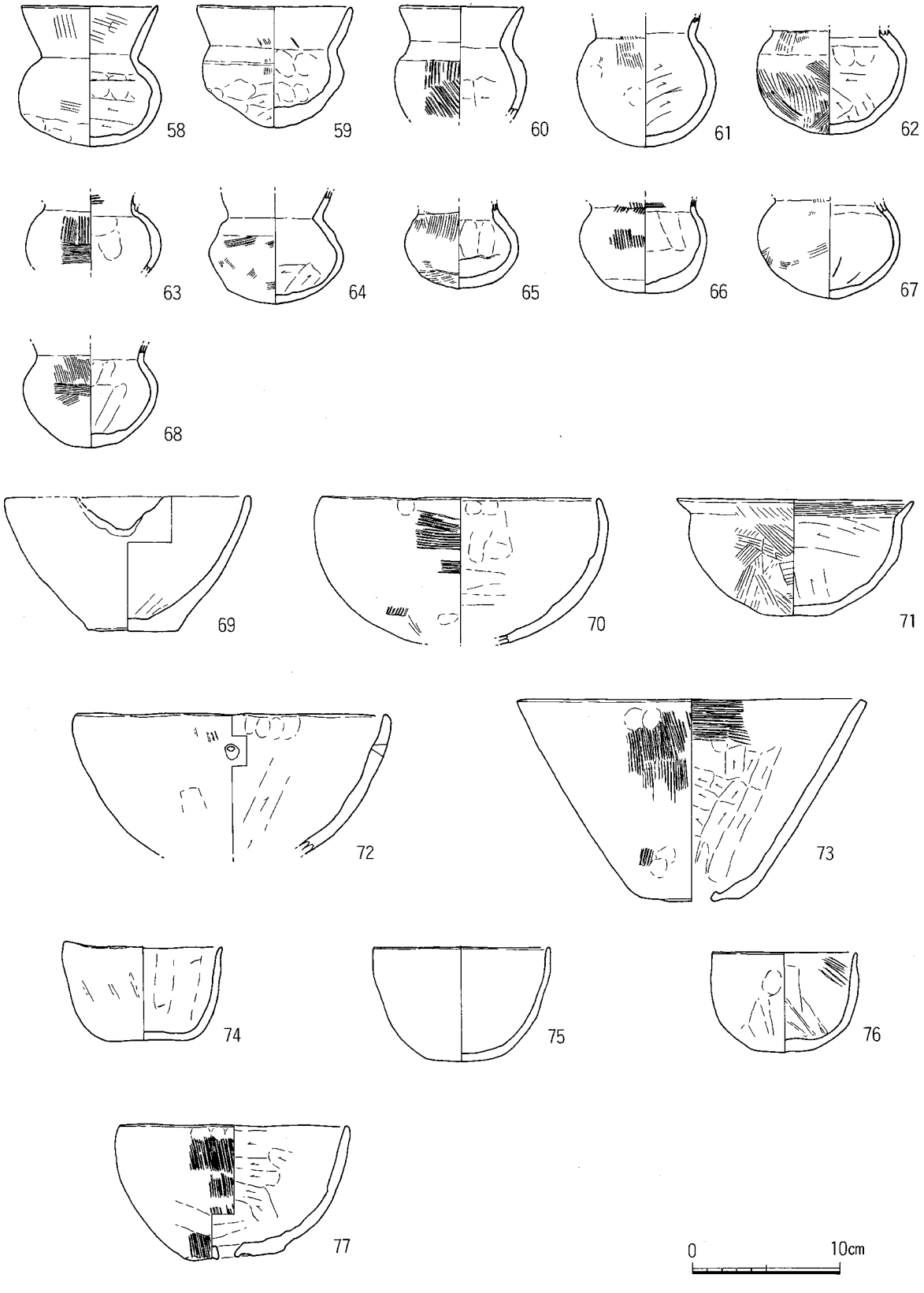


Fig.11　第10号溝出土遺物実測図⑦（1/4）

下はナデ。脚部柱状部外面はハケメ、内面はヘラケズリ、裾部はヨコナデを施す。80は脚部が短い。口径18.6cm、器高11.4cm、脚裾部径12.2cm。調整は坏部外面は器面が荒れるが僅かにハケが残る。内面はハケメ。脚部は外面は器面が荒れて不明。内面は柱状部がヘラケズリ、裾がハケメを施す。81は坏部は底部との境で屈折し、口縁部は内湾気味、端部は外反する。脚部は裾で大きく開く。口径18.0cm、器高12.3cm。調整は坏部内外面ともヨコナデ。脚部外面は器面が荒れて不明。内面は柱状部はヘラケズリ、裾はハケメを施す。82は坏部は底部との境で稜を成す。脚部は裾で大きく開く。口径18.0cm、器高12.4cm、脚裾部径12.4cm。調整は坏部は底部内面が不整方向のナデ、他はヨコナデ。脚部外面は縦方向のハケメ、内面柱状部はヘラケズリ、裾はヨコナデを施す。83は坏部は内湾気味で口縁端部は外反する。脚部は裾に向かい緩やかに開く。中位やや下に焼成前に穿孔を施す。口径18.0cm、器高13.6cm、脚裾部径11.6cm。調整は坏部外面は口縁部はヨコナデ、底部はナデ、内面は口縁部はハケ後ヨコナデ、底部はハケメ。脚部は柱状部外面ハケ後ナデ、内面はヘラケズリ、裾部はヨコナデを施す。84は坏部は底部との境で屈折し、口縁部は僅かに外反する。脚部は長く柱状部はエンタシス状を呈す。復原口径19.0cm、器高13.2cm、復原脚裾部径13.2cm。調整は坏部は外面はハケ後ヨコナデ、内面はヨコナデ。脚部外面は器面が荒れるがナデか。内面は柱状部がヘラケズリ、裾はヨコナデを施す。85は坏部は底部との境で屈折し、口縁部は僅かに外反する。脚部は坏部に比してやや小ぶりで裾部で屈折して開く。口径20cm程度、器高12.4cm、脚裾部径11.2cm。調整は坏部外面はハケ後ヨコナデ、内面は口縁部はハケ後ヨコナデ、外部はナデ。脚部は外面及び裾部はヨコナデ、柱状部内面はヘラケズリを施す。86は坏部は底部との境で緩い稜を成し、口縁端部は僅かに外反する。脚部は裾に向かい緩やかに開く。口径16.4cm、器高12.3cm、復原脚裾部径10.2cm。調整は坏部外面はヨコナデ、屈折部にハケが残る。内面は口縁部はヨコナデ、底部はナデ。脚部外面及び裾はナデ、柱状部内面はヘラケズリを施す。87は坏部は底部との境で緩い稜を成す。脚部はラッパ状を呈す。復原口径19.6cm、器高12.7cm、脚裾部径13.5cm。調整は坏部外面口縁部はヨコナデ、底部はハケ後ヨコナデ。内面口縁部はハケメ、底部はハケ後ヨコナデ。脚部外面はハケメ、内面はヘラケズリ、裾部は内外面ともヨコナデを施す。88は坏部は底部との境で緩やかに屈折し口縁端部が僅かに外反する。脚部はラッパ状を呈す。口径17.3cm、器高11.7cm、復原脚裾部径12.2cm。調整は坏部は口縁部はヨコナデ、底部はナデ。脚部外面は器面が荒れて不明、内面はヘラケズリ及びユビオサエを施す。89は全体にやや小ぶりである。坏部は底部との境で屈折し、脚部はラッパ状を呈す。口径14.5cm、器高10.3cm、脚裾部径10.1cm。調整は坏部外面はヨコナデ、内面口縁部はヨコナデ、底部はナデ。脚部外面はナデ、内面はヘラケズリを施す。90は坏部は底部との境で屈折し、口縁部は外反する。口径18.8cm。調整は坏部外面はヨコナデ、内面は口縁部がハケ後ヨコナデ、底部がナデ。脚部は外面はナデ、内面はヘラケズリを施す。91はややだれたつくりである。屈折部の稜はシャープさに欠ける。口径17cm程度。調整は坏部外面はハケ後ヨコナデ、内面は口縁部がハケ後ヨコナデ、底部がナデ。脚部は外面上位がハケメ、以下はナデ、内面はヘラケズリを施す。92は底部と口縁部の境にシャープな段を成す。脚部は裾で大きく開く。復原口径18.0cm。調整は坏部外面はハケ後ヨコナデ、内面は口縁部がユビオサエ後ヨコナデ、底部は器面が荒れて不明。脚部は内外面ともにヘラケズリを施す。93は底部との境で屈折し、口縁部は外反する。口径18.2cm。調整は外面は口縁部がハケ後ヨコナデ、底部はハケメ。内面は口縁部がハケ後ヨコナデ、以下はハケ後ナデを施す。94は底部との境で緩やかに屈折し、口縁部中位が肥厚する。口径19.0cm。調整は器面が荒れるが、内外面ともにヨコナデを施す。95は底部との境で屈折し、口縁部は外反する。口径18.0cm。調整は外面がユビオサエ後ハケ後ヨコナデ、内面はハケ後ヨコナデ、一部ミガキを施す。96は底部との境で屈折し、口縁部中位が肥厚する。口径17.4cm。調整は外面はハケ後ヨコナデ、内面

は口縁部はハケメ、底部はハケ後ヨコナデを施す。97は底部との境で屈折する。復原口径19.3cm。調整は外面はハケ後ヨコナデ、内面は口縁部はハケ後ヨコナデ、底部はナデを施す。98はつくりがシャープさを欠く。口縁部は僅かに外反する。口径18.5cm。調整は内外面ともにハケ後ヨコナデを施す。99は底部との境で緩やかに屈折し、口縁部は外反する。口径20.0cm。調整は外面は口縁部がハケ後ヨコナデ、底部がナデ。内面は口縁部がハケ後ナデ、底部がナデを施す。100は屈折部で段を成し、口縁部は僅かに外反する。口径18.4cm。調整は外面がヨコナデ、内面は口縁部がハケメ、中位がヨコナデ、底部はナデを施す。101は底部と口縁部の境ににぶい稜を成す。口径17.0cm。調整は外面はハケ後ヨコナデ、内面は口縁部がヨコナデ、底部がナデ。僅かに遺存する脚部は外面がヨコナデ、内面がナデを施す。102は口縁部は外反し、底部との境で僅かに屈折し、にぶい稜を成す。口径18.2cm。調整は外面はハケ後ヨコナデ、内面はハケが一部残る。口縁端部に沈線が巡る。103は他に比してやや大ぶりである。底部との境で僅かに屈折し、口縁端部は肥厚する。口径20.9cm。調整は外面は口縁部がハケ後ヨコナデ、底部はハケメ、内面は口縁部が横方向のハケメ、以下はナデを施す。104は他と比して深めである。底部との境で屈折し、内湾気味に立ち上がる。口縁端部は外反する。口径17.0cm。調整は内外面がハケ後ヨコナデを施す。105は底部との境で屈折し、内湾気味に立ち上がる。口縁端部は外反する。口径18.6cm。調整は器面が荒れて不明。106は形態は105と同様。復原口径18.0cm。調整は器面が荒れるが、坏部は内外面ともハケ後ヨコナデ。脚部外面はヨコナデ、内面はヨコナデを施す。107は他と比してやや大ぶりである。内湾気味に立ち上がり、口縁端部は外反する。口径20.2cm。調整は底部内面はナデ、他はヨコナデを施す。108は底部との境で緩やかに屈折し、口縁部は内湾する。口径16.8cm。調整は内外面ともハケ後ヨコナデを施す。109は小型で底部との境で屈折し、口縁部は外反する。口縁端部は肥厚する。復原口径13.2cm。調整は外面がハケ後ヨコナデ、内面口縁部はハケメ、底部はユビオサエ後ハケ後ナデを施す。110は脚部は大型でラッパ状に開く。中位に3カ所焼成前の穿孔を施す。脚裾部径17.6cm。外面は器面が荒れて調整不明。内面は裾部がハケ、他はヘラケズリを施す。111は坏部は底部との境で屈折する。脚部の裾があまり開かない。脚裾部径10.6cm。調整は坏部外面はハケ後ヨコナデ、内面はナデ。脚部外面は柱状部がヘラナデ、裾がヨコナデ、内面は柱状部がヘラケズリ、裾がハケメを施す。112は坏部は底部との境で屈折し、口縁部は外反する。脚部は柱状部がエンタシス状を呈す。脚裾部径13.3cm。調整は坏部外面はハケ後ヨコナデ、内面は口縁部がハケ後ヨコナデ、底部がナデを施す。113は裾部で屈折し大きく開く。脚裾部径12.0cm。調整は柱状部外面がナデ、内面がヘラケズリ、裾部がハケ後ヨコナデを施す。114は裾部で屈折し大きく開く。裾部中位は肥厚する。脚裾部径11.3cm。調整は柱状部外面がヨコナデ、内面がヘラケズリ、裾部がハケ後ヨコナデを施す。115は裾部で屈折する。外面は器面が荒れて調整不明。裾部がナデ、柱状部内面がヘラケズリを施す。116は裾部に向かい緩やかに開く。脚裾部径11.5cm。調整は外面はヨコナデ、内面裾部がヨコナデ、他はヘラケズリを施す。117は裾部で屈折し、はね上がる。脚裾部径10.8cm。外面は器面が荒れて調整不明、内面はヘラケズリか。118は緩やかに開き、裾部で屈折する。脚裾部径12.6cm。調整は外面上位がヨコナデ、裾部がハケ後ヨコナデ、内面はヘラケズリ、裾部はナデを施す。119は他と比して低く、緩やかに開く。脚裾部径11.7cm。調整は外面がハケメ、内面がヘラケズリ、裾部がヨコナデを施す。120は器壁が厚い。脚裾部径11.1cm。外面は器面が荒れて調整不明、内面はヘラケズリ、裾部はナデを施す。121は裾部で緩やかに屈折する。脚裾部径12.1cm。外面は器面が荒れて調整不明。内面はヘラケズリ、裾部はハケ後ナデを施す。122は裾部に向かい緩やかに開く。僅かに裾部で屈折する。脚裾部径12.7cm。外面は器面が荒れて調整不明。僅かにハケメが残る。内面はヘラケズリを施す。123は裾部に向かい緩やかに開く。脚裾部径12.3cm。調整は外面がナデ、裾部がヨコナデ、内面はヘラケズリ、裾部はハケ

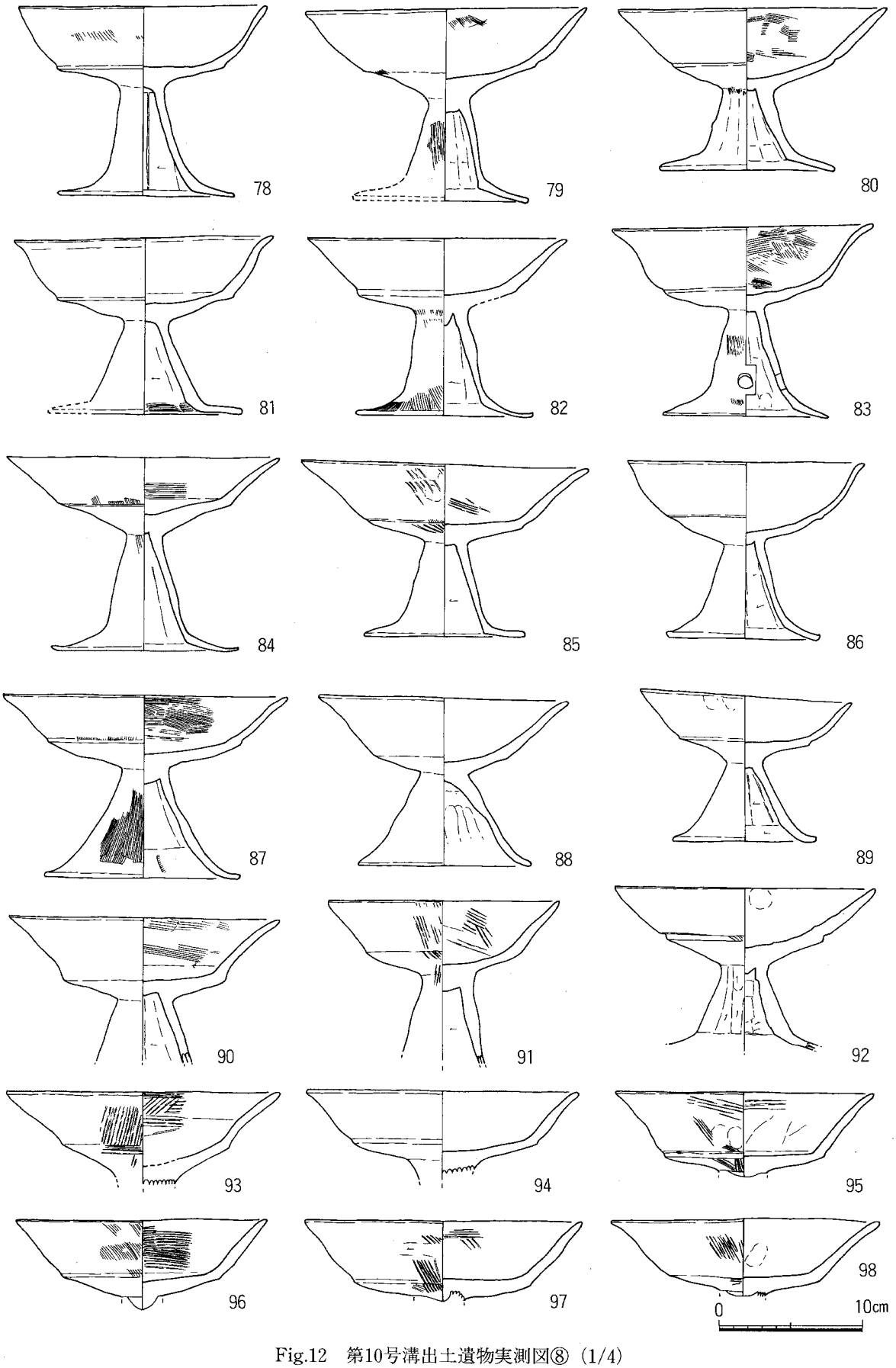


Fig.12　第10号溝出土遺物実測図⑧（1/4）

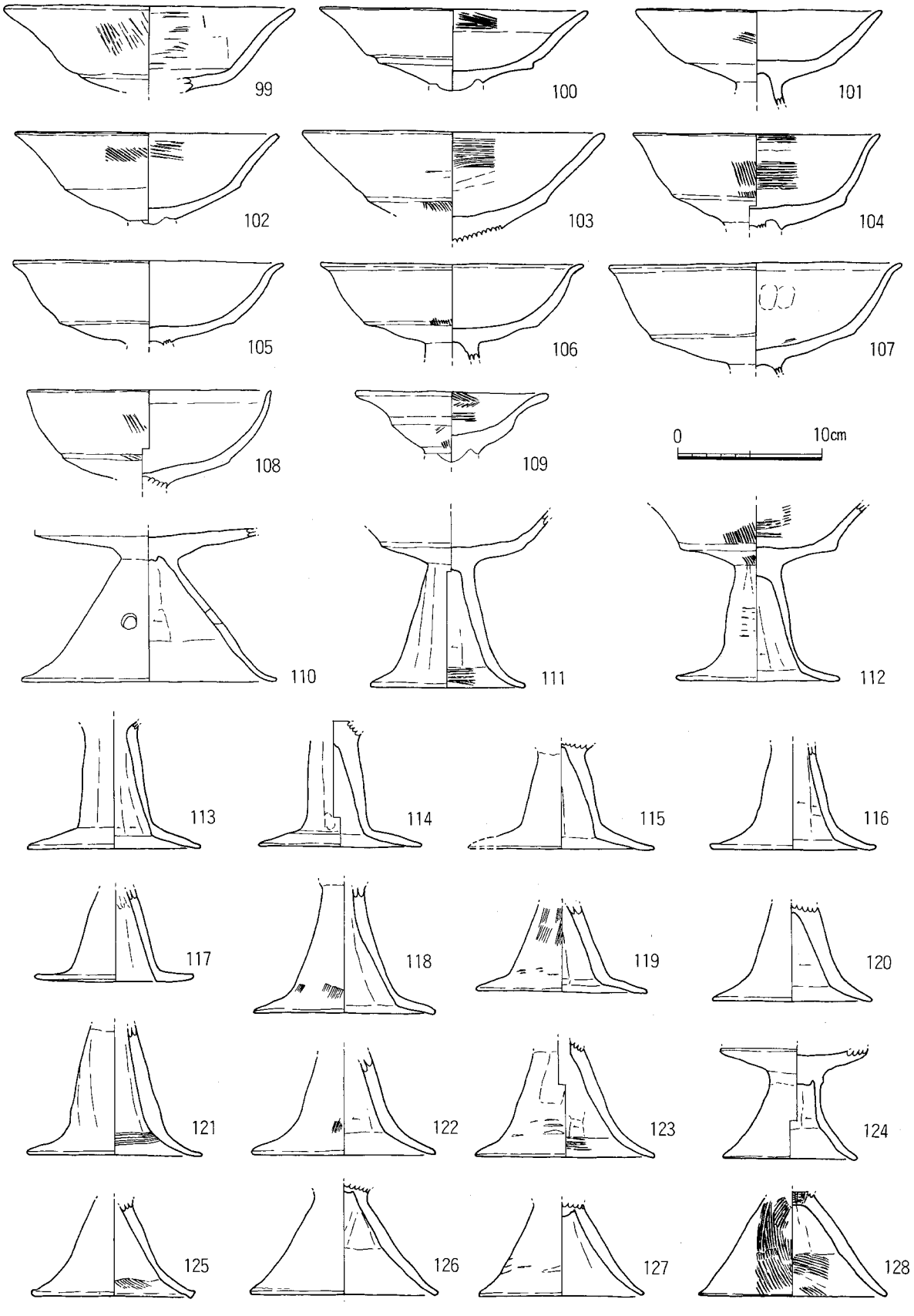


Fig.13　第10号溝出土遺物実測図⑨（1/4）

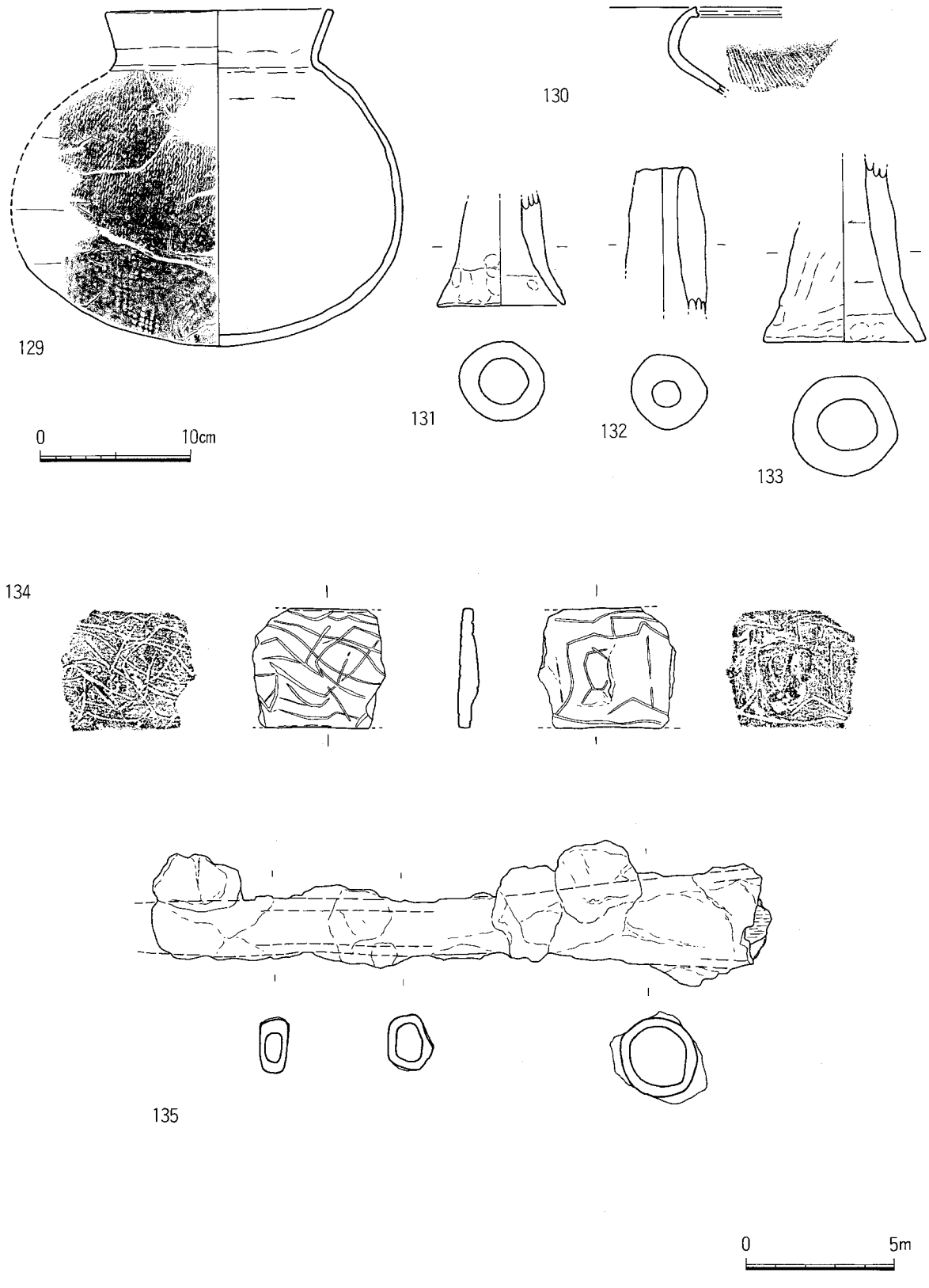


Fig.14　第10号溝出土遺物実測図⑩（1/4）

メを施す。124は脚部の基部が太く、低い。脚裾部径11.3cm。坏部、脚部外面は器面が荒れて調整不明。坏部内面はヘラケズリ。脚部内面はケズリ、裾部がハケ後ヨコナデを施す。125は裾端部をつまみ出す。脚裾部径11.2cm。調整は外面上位は器面が荒れて調整不明、裾部はヨコナデ、内面はヘラケズリ、裾部はハケ後ヨコナデを施す。126～128は裾部に向かいまっすぐ開くタイプ。126は脚裾部径13.0cm。調整は外面上位がナデ、内面上位がケズリ、裾部が内外面ともヨコナデを施す。127は脚裾部径11.4cm。調整は外面は器面が荒れるが、ハケ後ナデか。内面はヘラケズリ、裾部はヨコナデを施す。128は脚裾部径13.0cm。調整は外面上位がハケメ、以下がハケ後ヨコナデ、内面上位がヘラケズリ、以下がハケ後ヨコナデを施す。

129は瓦質土器の甕である。口径15.3cm、器高22.5cm。調整は口縁部がナデ。胴部外面上位が縄目タタキ。下位が格子目タタキ。内面はナデを施す。

130は陶質土器の甕である。調整は外面は口縁部がヨコナデ、肩部上位が縄目タタキ後ヨコナデ、以下は縄目タタキ。内面はヨコナデを施す。

131～133は羽口である。131は裾が開き、先に向かい細くなる。内径最大径7.8cm。調整は外面がユビオサエ、内面はナデ。132は内径2～2.5cm。外面はユビオサエ、内面はケズリか。133は裾が開き、先に向かい細くなる。内径最大径9.6cm。調整は外面がユビオサエ後ナデ。内面はケズリを施す。高坏の脚部の調整と似ている。これに伴うのであろうか、図化できなかったが、鉄滓が5209g程出土している。

134は不明土製品。現存長4.3cm、幅4.1cm。内外面ともに細かく線刻を施す。祭祀専用品であろうか。

135は鉄矛。現存長20.6cm、幅1.7～3.5cmを測る。身部は残存しない。袋部との境付近で折れたものと思われる。差し込まれた柄の一部が残存している。

他に今回掲載できなかったが、砥石が数点出土している。

3　土坑

第１号土坑

調査区中央よりに位置する隅丸長方形の土坑である。長さ102cm、幅70cm、深さ14cmを測る。遺物は瓦器、土師器の細片が少量出土している。

第８号土坑

調査区東壁に切られて位置する不整形の土坑である。東西259cm、南北140cm以上、深さ12cmを測る。遺物は瓦器、土師器の細片が少量出土している。

4　掘立柱建物

第20号建物

第１号土坑と重なるように位置する、南に庇をもつ２間×３間の建物である。梁間4.2m、桁行6.3mを測る。身舎と庇との間隔は0.8mである。また身舎の柱穴が直径30cm、深さ50cm程度を測るのに対し、庇部分の柱穴は直径20cm、深さ30cm程度とひとまわり小さくなる。遺物は土師器、瓦器の細片が少量出土している。

第21号建物

第20号建物の西に位置する、２間×２間以上の建物で４面に庇をもつものか。梁間４m、桁行4.2m以上を測る。身舎と庇との間隔は0.9mである。身舎の柱穴が直径30cm、深さ30cm程度を測るのに対し、庇部分の柱穴は直径15～20cm、深さ20cm程度と小さくなる。遺物は黒色土器（138）、土師器の細片が少量出土している。

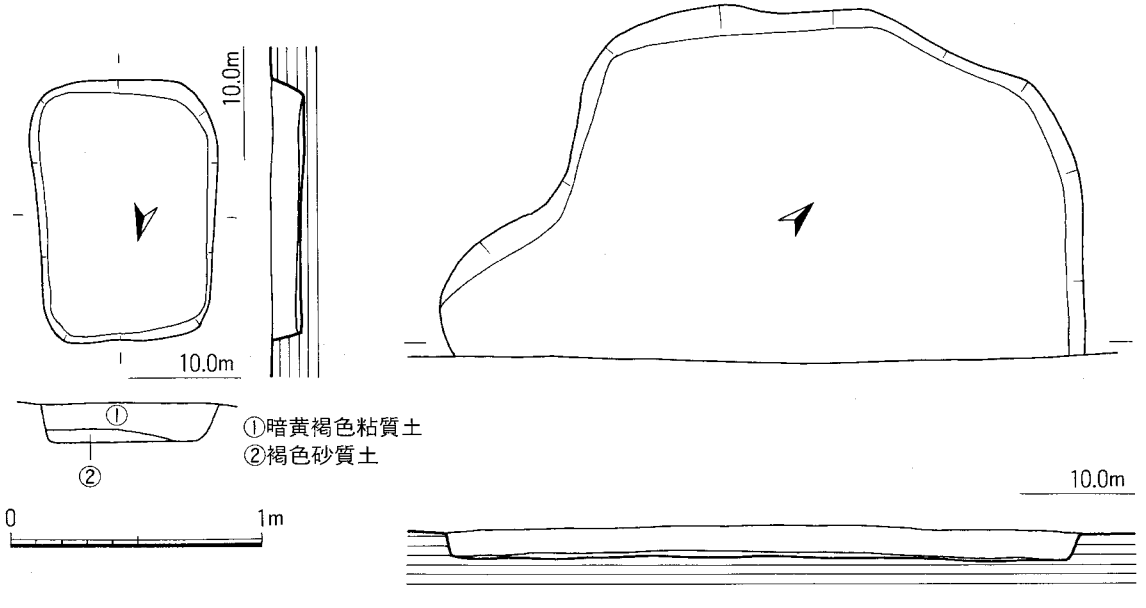


Fig.15　第１・８号土坑実測図（1/30）

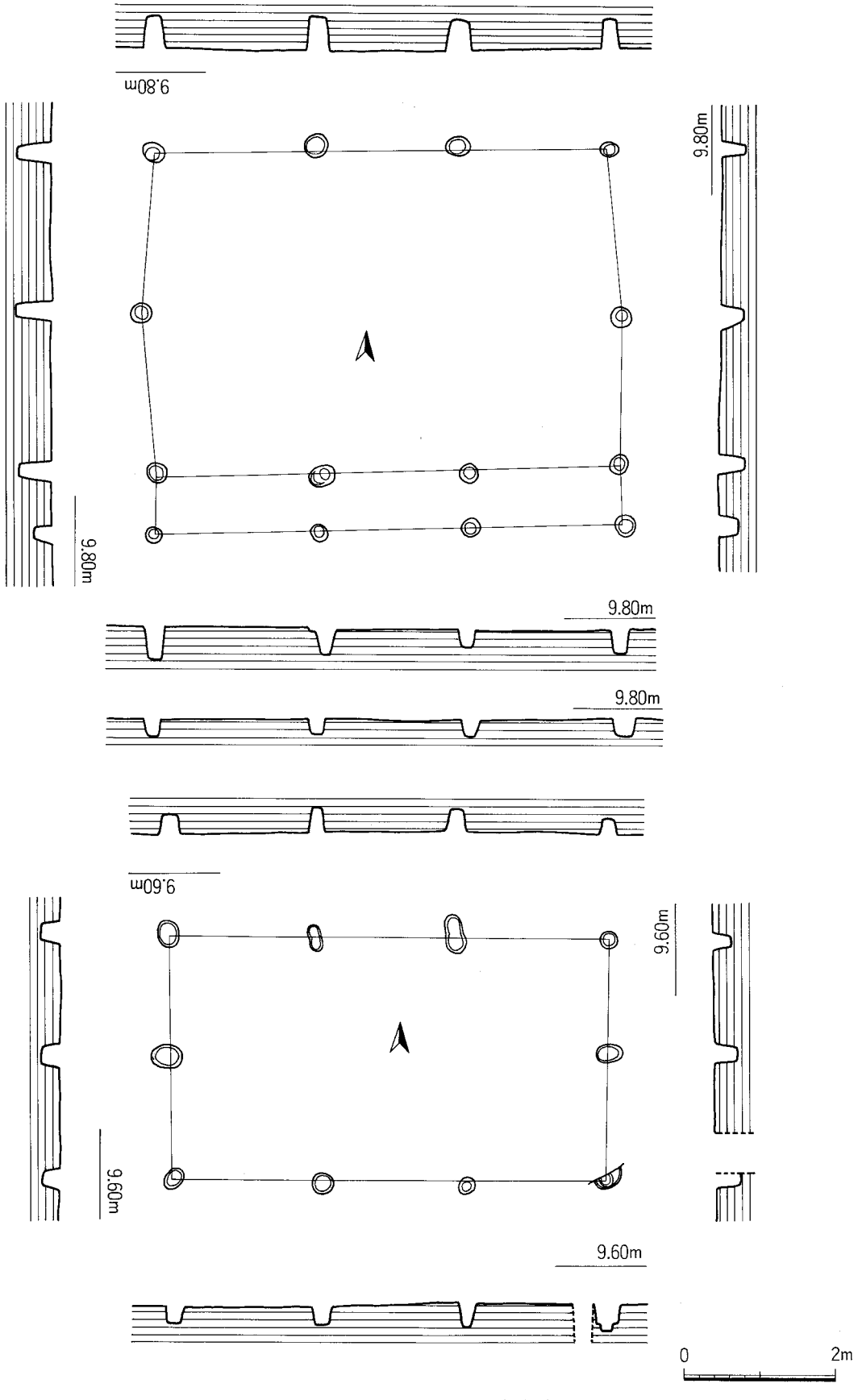


Fig.16　第20・22号建物実測図（1/80）

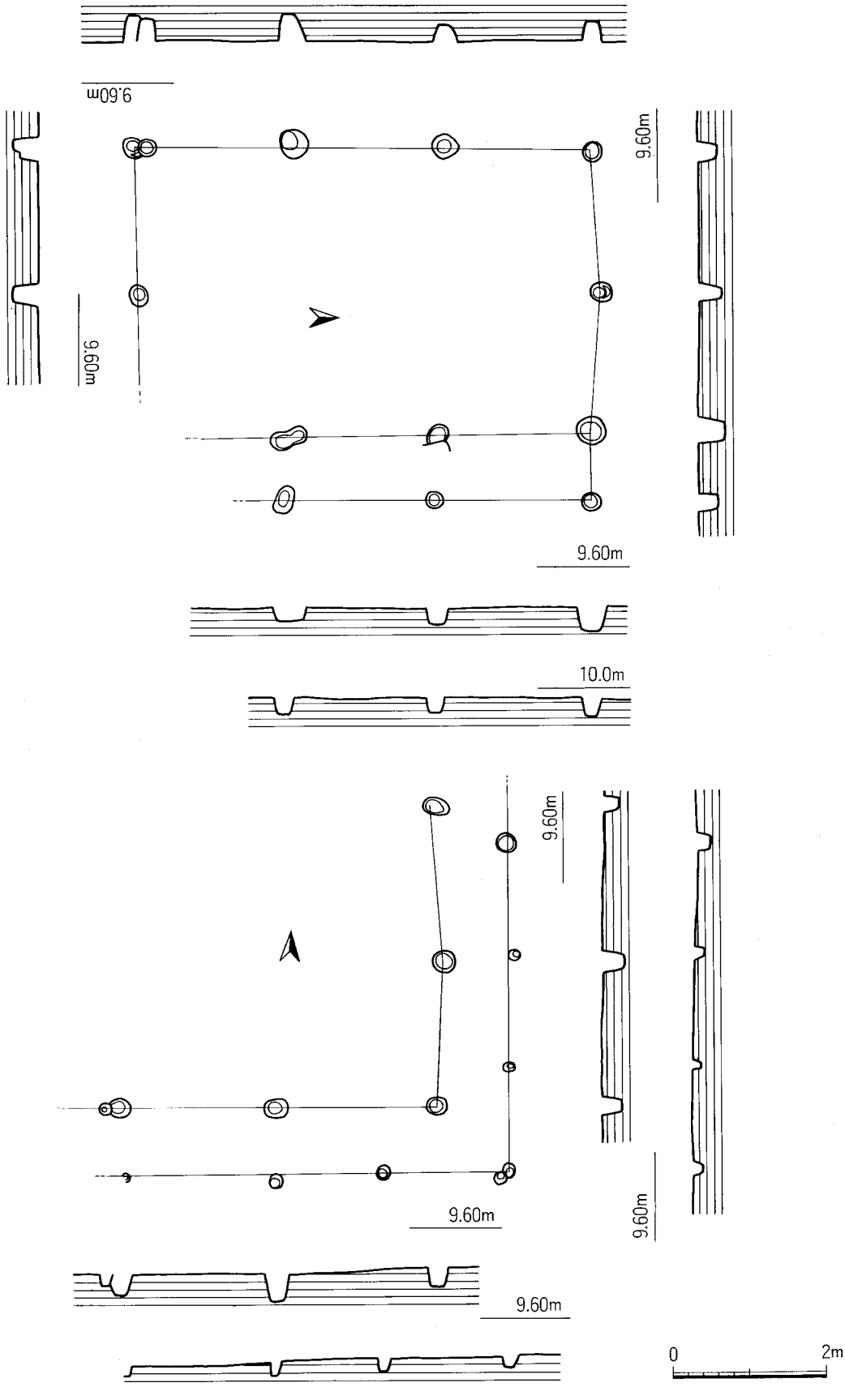


Fig.17　第21・23号建物実測図（1/80）

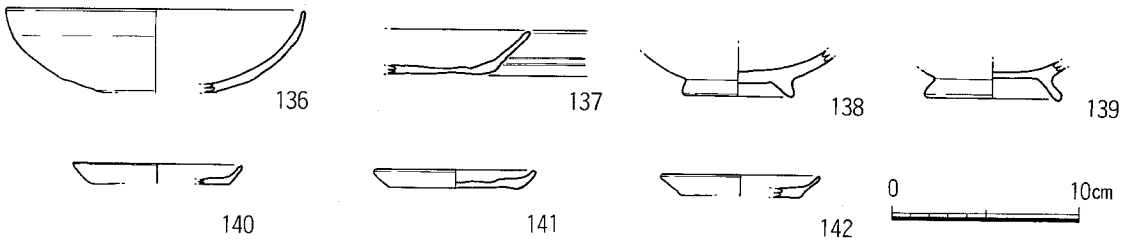


Fig.18　ピット出土遺物実測図（1/4）

第22号建物

調査区南に位置する２間×３間の建物である。梁間3.2m、桁行5.8mを測る。柱穴は直径20～40cm、深さ25～40cmを測る。遺物は白磁、土師器、瓦器の細砕が少量出土している。

第23号建物

第22号建物の南に、他の建物群に対し軸を直交するように位置する、東に庇をもつ２間×３間の建物である。梁間3.2m、桁行６mを測る。身舎と庇との間隔は0.8～0.9mである。身舎の柱穴が直径30～40cm、深さ30～40cm程度を測るのに対し、庇部分の柱穴は直径30cm、深さ20cm程度とひとまわり小さくなる。遺物は白磁、土師器の細砕が少量出土している。

5　溝状遺構

調査区北部に南北方向に軸をとる溝状遺構が４条みとめられる。いずれも白磁、土師器の細砕が出土しており、建物群と近い時期と考えられる。現時点でその機能を確定できないが、建物の区画等の可能性が考えられる。

6　その他の出土遺物

136はＰ－１出土。土師器の椀。復原口径14.8cm。調整は内外面ともにナデを施す。137はＰ－66出土。土師器の皿。器高2.5cm。調整は内外面ともナデを施す。底部の切り離しは糸切り。138はＰ－２出土。黒色土器の椀。高台径6.0cm。調整は外面はヨコナデ、内面はヘラミガキを施す。139はＰ－59出土。土師器の椀。高台径7.2cm。調整は外面はヨコナデ。内面は器面が荒れて不明。140～142は土師器の小皿。140はＰ－61出土。復原口径9.0cm、器高1.1cm程度。141はＰ－62出土。復原口径8.6cm、器高1.0cm。142はＰ－77出土。復原口径8.6cm、器高1.2cm程度。いずれも底部の切り離しは糸切り。

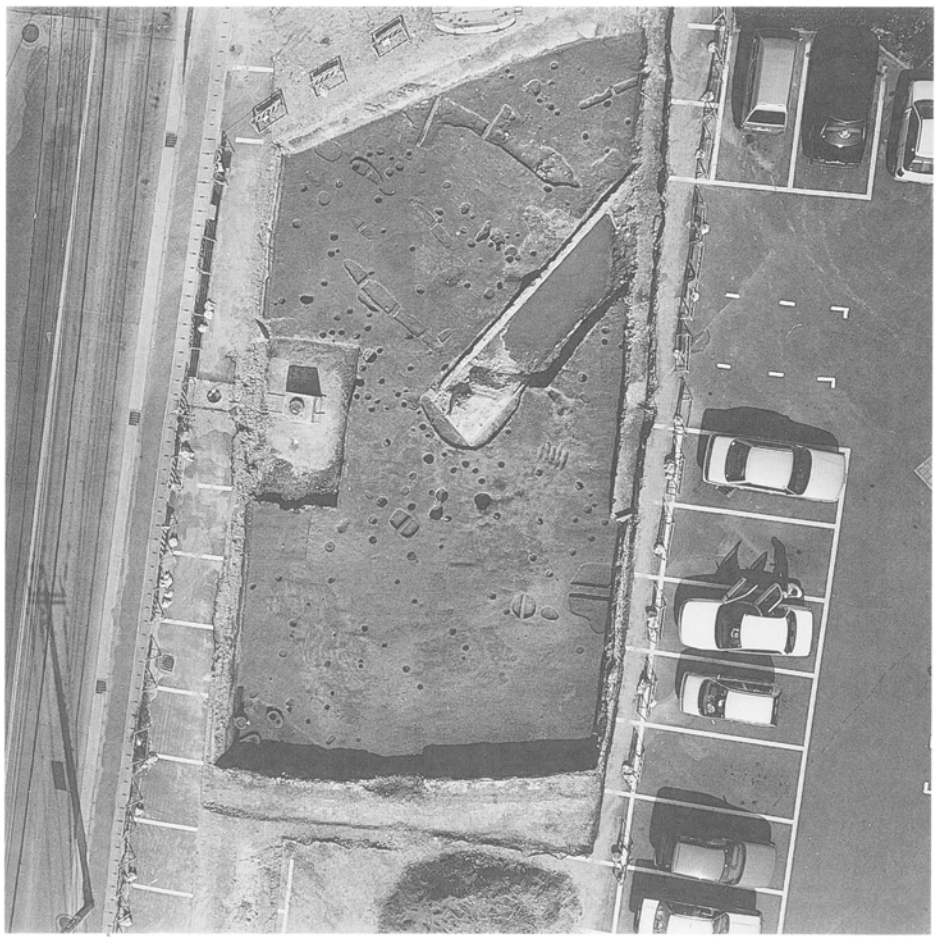
7　おわりに

今回の調査で検出された第10号溝は第１次調査で確認されたＳＤ－06と同一のものと思われる。この溝で特徴的なことは流れを完全に止めた直上の層から多量の土師器を中心とする遺物を出土することである。これは高坏や小形丸底壺の割合が高いことや完形品、あるいはそれに近いものが多いことから単なる廃棄ではなく、祭祀の痕跡を示したものと思われる。そしてその対象は機能を完全に失った溝に対しておこなわれたものと推察される。土器の分布状況からはある一定のまとまり等は見て取ることはできず、ある程度継続して行われたものか、一度に行われたものか判断がつかない。また土器群は溝の西岸よりに偏るため、祭祀行為は西岸部で行われたものと考えられる。同様の理由から集落も東岸に同時期の遺構が存在しないことも合わせ、西岸部にその存在を求められよう。時期については５世紀前半を下限とすると思われる。

建物群については20、21、22号の３棟が南北に主軸を、23号が東西に主軸をとり規則制がみられる。また建物に囲まれる調査区中央部は柱穴があまりみられないことから、ほぼ同時期に存在したものと考えられる。時期については出土遺物が少なく決め手に欠けるが、古代末から中世前半期と思われ、第１次・２次調査の成果と合わせて考えると、この地点における存続期間はさほど長くないものと思われる。その範囲は調査区南部以南の試掘調査の結果、柱穴等の遺構が確認されてないことから、調査区をほぼ南西限とするものと思われる。

図　版

調査区北部



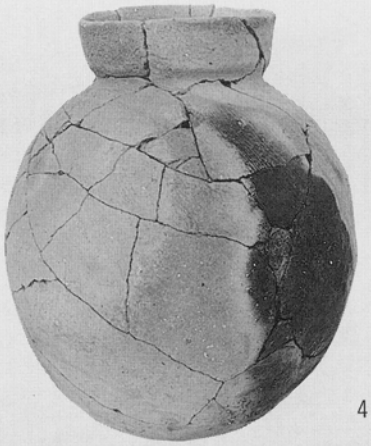
調査区南部

第10号溝

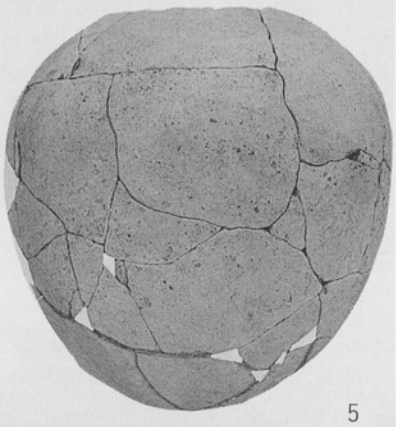
出土遺物①

2

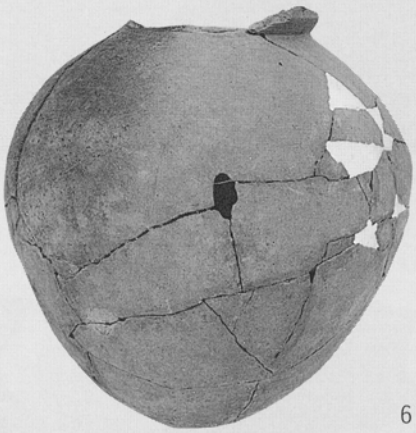
3



4



5

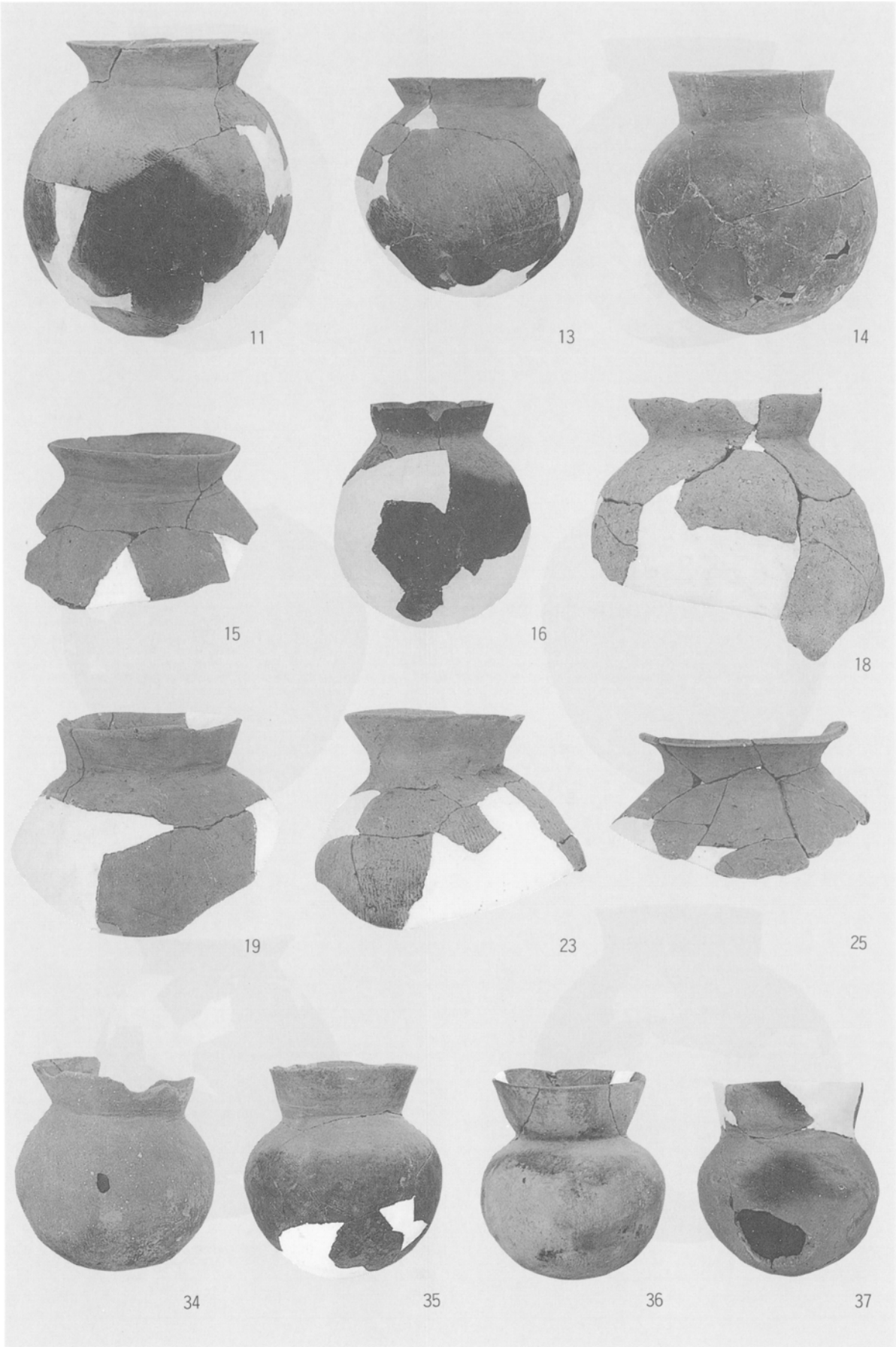


6

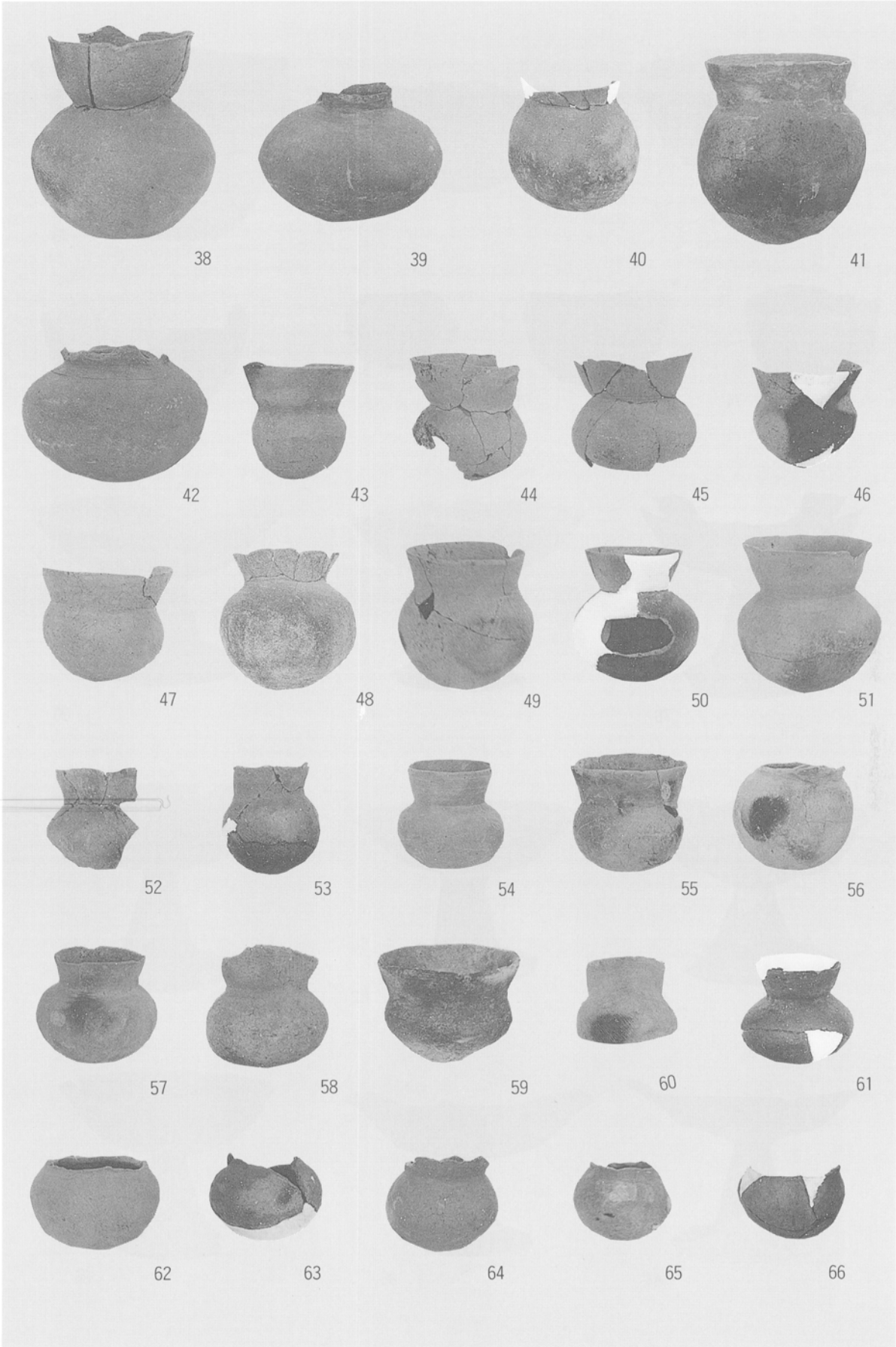
9

10

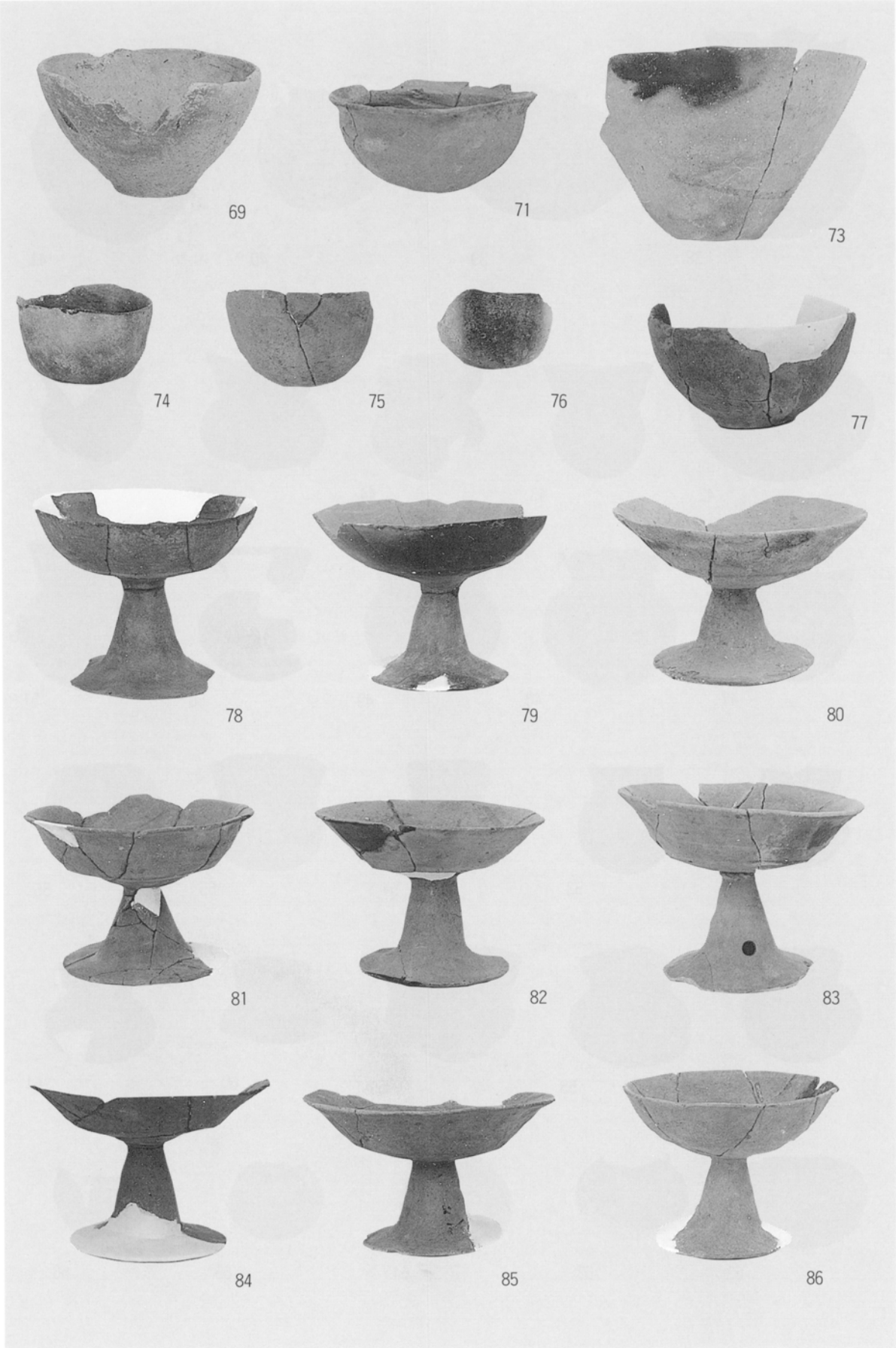
出 土 遺 物 ②



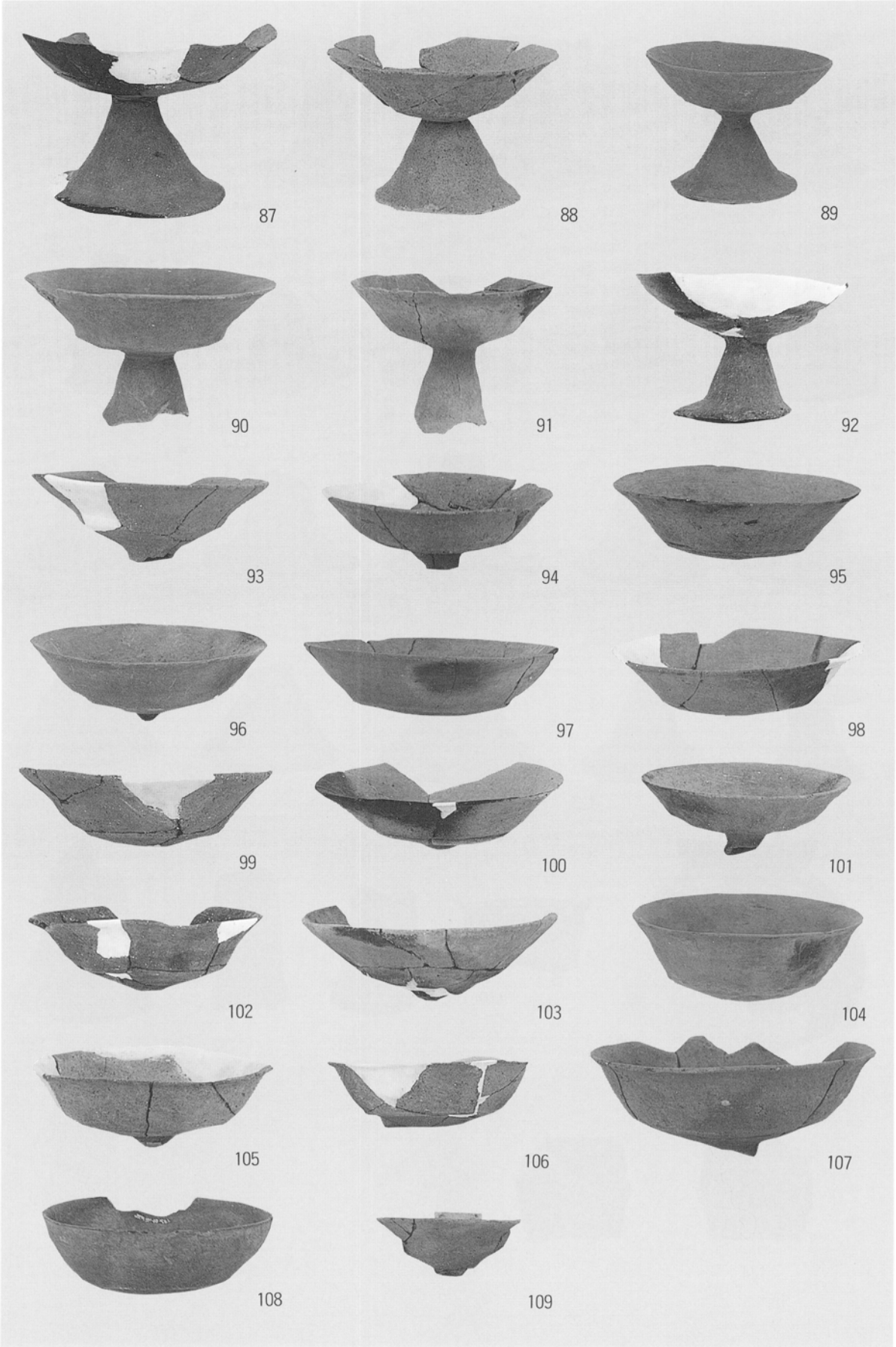
出 土 遺 物 ③


38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66

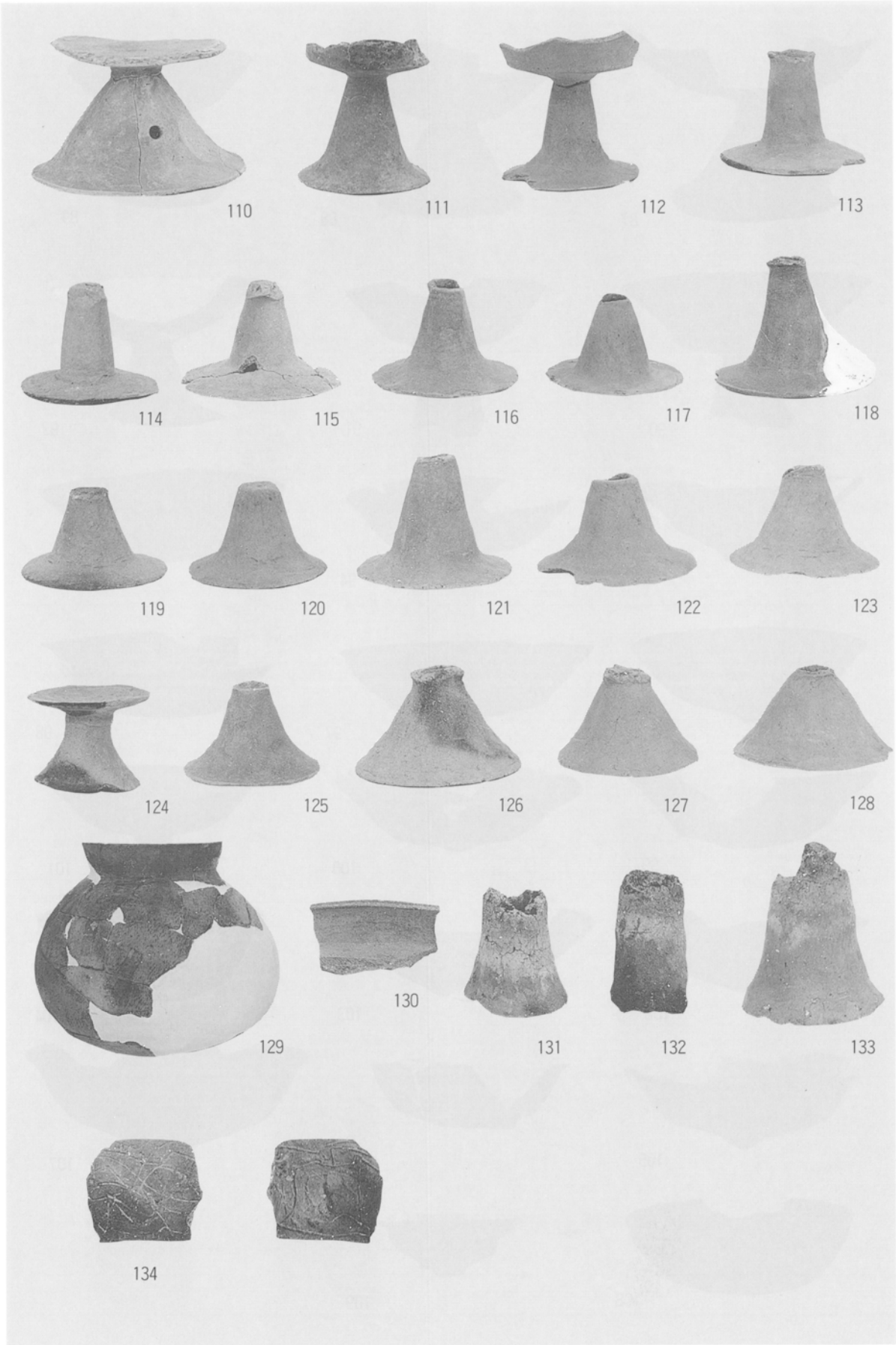
出 土 遺 物 ④



出 土 遺 物 ⑤


87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109

出 土 遺 物 ⑥


110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134

出 土 遺 物 ⑦

次郎丸遺跡Ⅰ

— 次郎丸遺跡群第3次調査 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第468集

1996年 3 月31日発行

発 行　福岡市教育委員会
　　福岡市中央区天神1丁目8番1号
印 刷　大野印刷株式会社